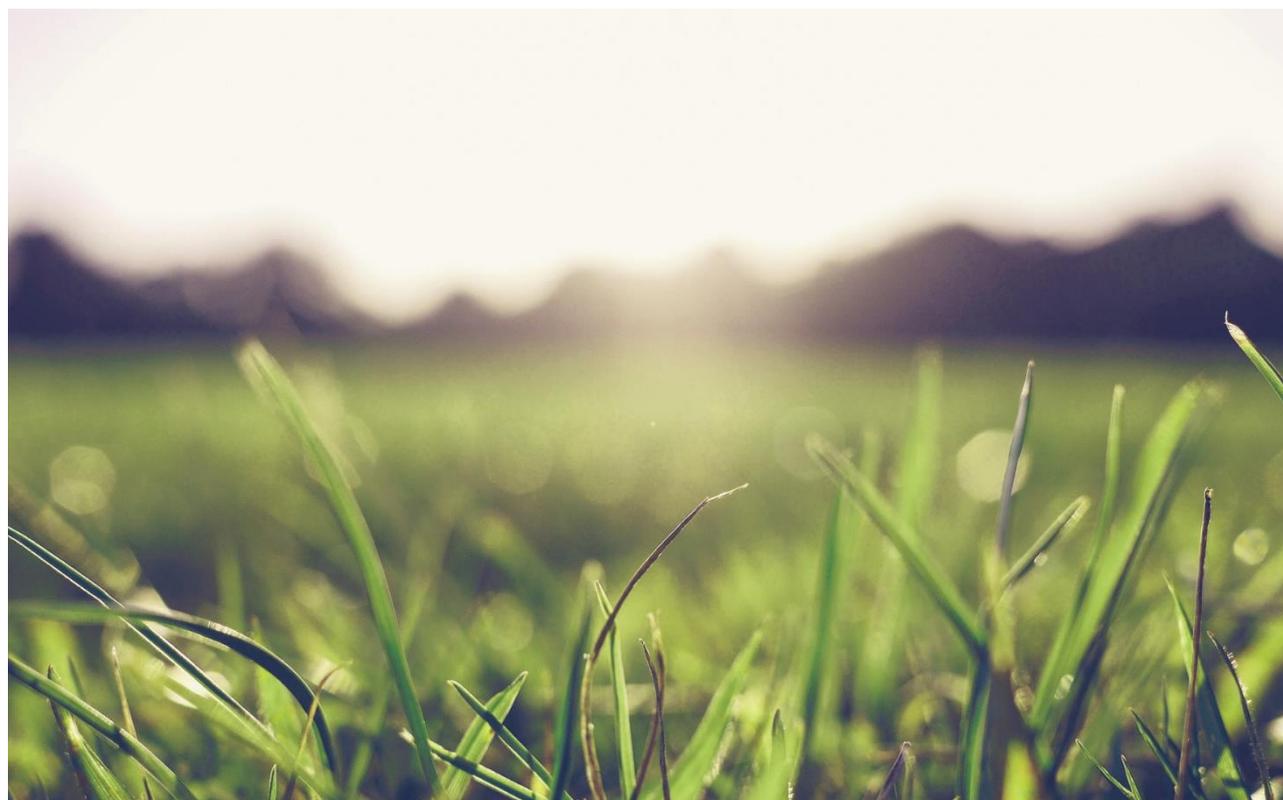


# 愛媛の道徳教育

第48集



2024.3

愛媛県教育研究協議会 道徳委員会

# 目 次

「愛媛の道德教育」第48集の発刊にあたって .....	1
I 道德委員会研究部の提案	
令和5年度研究の基本構想 .....	2
小学校の実践 .....	6
中学校の実践 .....	8
II 「第26回愛教研小・中学校道德教育研究大会」記録	
研究大会要項 .....	10
第1分科会 道德科講座 授業づくりの基本 .....	11
第2分科会 小学校部 提案・演習 .....	13
第3分科会 中学校部 授業提案 .....	15
特別講演記録(教科調査官) .....	17
III 研究大会報告	
第57回全日本中学校道德教育研究大会 .....	25
IV 支部だより	
四国中央 .....	29
新居浜 .....	31
西条 .....	33
今治・越智 .....	35
松山 .....	37
東温 .....	39
伊予 .....	41
上浮穴 .....	43
大洲 .....	45
喜多 .....	47
八幡浜 .....	49
西宇和 .....	51
西予 .....	53
宇和島 .....	55
北宇和 .....	57
南宇和 .....	59
附属 .....	61
おわりに .....	63
役員一覧 .....	64

## 「愛媛の道徳教育」第48集の発刊にあたって

愛媛県教育研究協議会 道徳委員会

委員長 山岡 健二(西条市立国安小学校校長)

早いもので、小学校においては、道徳科が教科化され6年目となり、次期学習指導要領の改訂に向け、折り返し地点が近付いてきています。この6年間で道徳科の授業は質・量ともに向上してきました。私たちは「考え、議論する道徳」、「主体的・対話的で深い学びのある道徳」を目指し、日々実践を積み重ねてまいりました。その中において、道徳科の授業が児童生徒にとって真に学びがいのあるものとなっているのかが本県の課題でもありました。本県が考える学びがいのある授業とは、多様な価値観に触れることを通して、自己の生き方を考える授業で、児童生徒が役に立ったと感じたり、次も学びたいと思ったりする授業です。そこで、研究主題を「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の研究ー学びがいのある道徳科の授業を要としてー」とし、研究を進めているところです。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、実に4年ぶりに夏季研修会(愛教研小・中学校道徳教育研究大会)を開催することができました。本研修会は、これまで愛媛県の教員の道徳科の授業力向上を図るために実施してまいりました。本年度の研修会では、三つの分科会と文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 井上結香子様のご講演を行うことができました。県内各地から200名を超える方にご参加いただき、授業力向上につながる研修が実施できたことを大変うれしく思います。

最近、チャットGPTに代表される生成型AIがよく話題となっています。今後、学校教育にも大きな影響を与えてくるものと思います。日本のロボット開発の第一人者である古田貴之先生がご講演の中で、AIにできないことを二つ挙げられていました。皆様は何だと思えますか。それは、善悪を判断することと責任を負うことだそうです。この話からますます道徳教育が大切になってくると感じました。

結びになりますが、本冊子を発行するに当たり、夏季研究会についてまとめていただいた皆様、各支部の取組についてご報告いただいた支部委員長様、編集作業にご尽力いただいた道徳委員会の皆様に心から感謝を申し上げます。本冊子の発刊がこれからの皆様の道徳科の授業改善の一助になれば大変ありがたく思います。愛媛の子どもたちのために、ともに学びがいのある道徳科の授業をつくっていきましょう。

# I 道徳委員会研究部の提案

## 令和5年度 研究の基本構想 — 道徳教育と道徳科を意識して —

愛媛県教育研究協議会 道徳委員会  
研究部長 小島 啓明

### 1 はじめに

道徳の教科化完全実施から5年、全国的にも道徳科の実施と実践はより精査・精選されてきている。愛教研道徳委員会として、これまでの愛媛県における研究推進状況を踏まえ、「よりよいもの」を目指した、研究の方向性をここに提案する。

私たちの願いは、各校が目指す道徳教育目標の達成に向け、学校それぞれの実態に目を向け、道徳教育や道徳科を充実させてほしいことにある。

そこで、私たちの提案する本研究が、各校が目指す道徳教育目標の達成のための一助になればと考える。

### 2 研究主題

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の研究  
— 学びがいのある道徳科を要として —

### 3 主題設定の理由

本研究の主題設定の理由を、社会情勢、学習指導要領に書かれていること、その上で私たちが大切にしたいことの三つの側面から見ていく。

#### (1) 子どもを取り巻く、現代の社会情勢の側面

グローバル化はますます進み、人やもの、情報だけでなく、多様な価値観や文化が複雑かつ密接に絡み合う中で、子どもたちは生きていくことになる。そのような社会を生き抜いていくために、他者と協働しながら考え、自らよりよく課題を解決する力が不可欠である。そこで、目の前の事象に対し、深く見つけ、広い視野から多面的・多角的に考え判断する力や善を志向する思いを基盤に、適切な行為を選択し、それを進んで実行しようとする心構えや身構えを持って行動する子どもの育成に重要性が増している。

#### (2) 学校教育の側面

全教育活動の中で行われる「道徳教育の目標」は、学習指導要領第1章総則の第1の2の(2)の3段目に「自己(人間として)の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」とある。そして、その道徳教育の中に「道徳科」はあり、「道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たす」ものとして位置付けられている。つまり、道徳性を養うことを目指すものとして、中核的な役割を果たすもので、道徳科が道徳教育の要として実効性のあるものとなるには、道徳科の特質を踏まえた授業を地道に実践していくことが肝要である。

一方、「要となる道徳科」が目指すものは、学習指導要領「第3章 特別の教科道徳」の「第1目標」に示されているように、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」である。そのために、「各教科等で行われる道徳教育を補ったり、深めたり、発展させ、統合させたりして、計画的・発展的に道徳科の指導を進めていくこと」が大切である。

### (3) 私たちが大切にしたいこと

私たちが大切にしたいことは、「毎時間の地道な積み上げ（日々の生活における道徳教育）の下、「学びがいのある授業」を意識し、道徳的価値の自覚を深めていくことにある。そこで、授業において道徳的価値の自覚を深めるために、「学びがいのある授業」を次のように捉える。

#### 【学びがいのある授業】

- 集中して考え、しんどかったけれど時間が知らないうちに過ぎるような「真剣に考えることができる授業」
- 自分の言いたいことが言えた、「自分の思いや考えが素直に誠実に発言できる授業」
- 友達が自分の考えを聴く「自分の思いや考えがみんなに認められる授業」
- 新しい考えに出合えて、ハッとするような「自分もっていない価値観に出合える授業」
- 胸にストンと落ちた（納得した）「道徳的価値の大切さを再認識、再確認できる授業」
- 満足感とともに身構えができた「価値の大切さについて、自らが納得する授業」

「学びがいのある授業」を実現することで「主体的・対話的で深い学びが実現できる」と考える。

このように、子どもがこれから生きる社会情勢、その中で、道徳教育、道徳科に求められていること、そのために意識しなければならないことを鑑み、研究主題を「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の研究 － 学びがいのある道徳科の授業を要として －」と設定した。

## 4 研究の視点

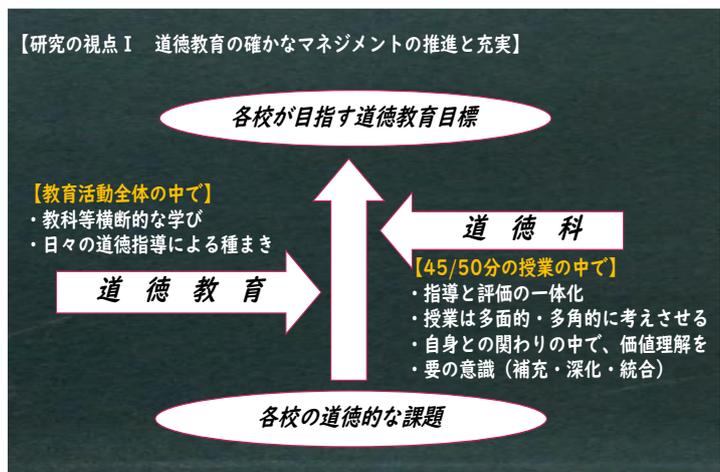
研究を進めていく上で、次の3点に着目して研究を推進していく。

### (1) 道徳教育の確かなマネジメントの推進と充実

道徳教育の確かなマネジメントを推進するために、「校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心として、各校の実態及び特色を生かした道徳教育推進体制の確立」、「重点内容項目を意識し、各教科等との横断的な学びの実現」、「指導と評価の一体化や道徳的価値の理解が、『要』の意識へ変革する期待感」の視座より考えていく。

これは、「各校の道徳的な課題」に対し、「日々の道徳教育を充実させ」、「学びがいのある道徳科を実施する」ことで、「各校が目指す道徳教育目標を達成する」というシンプルな道筋でよい。ただし、時間を掛け「計画・実践・評価・改善」を行う、いわゆる「PDCA サイクル」の下、各校の道徳的課題を見つめ直しながら一步一步着実に歩いていくことが肝要である。

つまり、道徳教育推進教師の位置付けを明確にし、全教職員が主体的な参画意識をもって、それぞれの役割を担うように努めることを指している。そのためには、「各校の道徳的な課題」や「道徳教育、道徳科」について、校長のリーダーシップの下、推進体制を充実させ、内容項目を意識した教科等横断的な学びの計画、指導と評価の一体化を意識できる研修の充実（資料1）が挙げられる。



資料1 確かなマネジメントの充実のために

## (2) 主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科の充実

「特別の教科 道徳」において「要」となる授業を充実させるために、次の5点に着目し、「道徳科の目標を達成させる」ことが肝要である。

### ア 道徳的諸価値についての理解をすることを基にする

価値理解(価値そのものの理解)・人間理解(よいと分かっている価値を実現する難しさ)・他者理解(価値についての別の見方)といういわゆる三つの理解を十分に深めることを基に、物事を考えていく。

### イ 自己を見つめる

ねらいとする道徳的価値について、自分の経験を基に、その時の感じ方、考え方と照らし合わせたり、他者の考えに触れたり、人間についての深い理解を鏡として、さらに考えを深める。

### ウ 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える

ねらいとする道徳的価値を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から理解し、主体的に学習に取り組む。

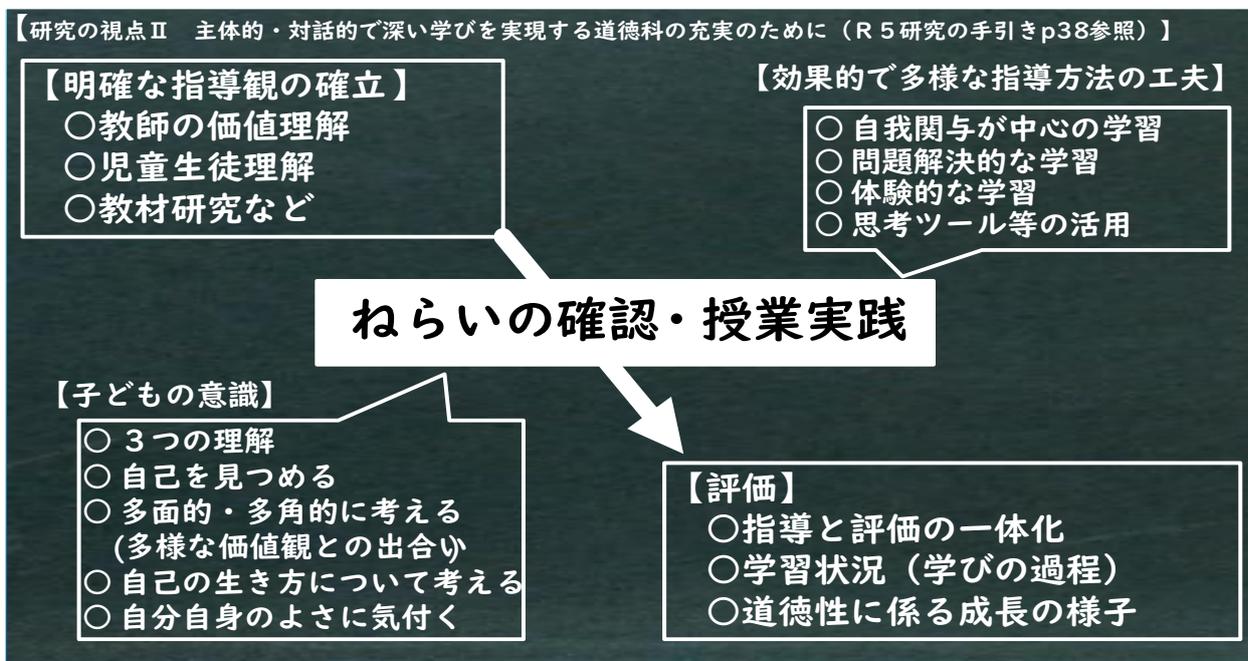
### エ 自己の生き方(人間としての生き方)についての考えを深める

道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自身の体験や感じ方、考え方を想起したりしながら、自己の生き方(人間としての生き方)についての考えを深める。

### オ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

道徳的判断力や心情、実践意欲や態度にもそれぞれ、「判断基準づくり、行為への動機づくり、心構え・身構え」と意味があり、指導者のねらいや実態、指導計画を踏まえ、授業を達成していく必要がある。

教師が明確な指導観をもって、ねらいを決め、上記5点を意識しながら授業を実践する。そして、そのねらいが達成されたかを評価する、いわゆる「指導と評価の一体化」(資料2)が毎時間構築されるようにしていく。



資料2 指導と評価の一体化に関する流れ

つまり、要となる道徳科の授業においては、多様な価値観に触れ、物事を多面的・多角的に考えられる場の設定や三つの理解が促される「学びがいのある授業」を意識する。その過程の中で、道徳的価値の自覚を深めることを目指していくとともに、そのねらいに沿った評価をしていくことが肝要である。

### (3) 開かれた道徳科・道徳教育の充実

「開かれた道徳科・道徳教育の充実」のためには学級・学年間、家庭や地域の人々、各分野の専門家等とのつながりを大切にしていくなかで、共通理解・相互の連携を図っていくことが肝要である。そのために考えられる例として、次の二つの側面が挙げられる。

#### ア 家庭や地域社会に開く

学校・学年便り、HP、ワークシートのやりとり、授業公開などを通じて、学校で行っている道徳教育について情報を発信するのみならず、児童生徒のよい点や道徳的習慣の様子などを伝えたり、情報提供を呼び掛けたりする。更に授業への積極的な参加や協力を得る。

#### イ 学校間で開く

他校や異校種等に積極的に授業公開したり、互いに学び合う機会を設けたりして、連携して道徳教育を推進する。

## 5 おわりに

「令和の日本型教育」は、私たちの教育実践の劇的な変革を求めているものではない。

また、文科省が説明する道徳的課題も昭和33年の学習指導要領解説に掲載されているものからその大意は、ほぼ変わっていない。

しかしながら、時代の流れに合わせて ICT など身近に活用することができるツールが多様になったり、中教審答申によってこれまでも登場していたキーワードが、改めて脚光を浴びたりしたことで、実践上の選択肢が増えたのも事実である。

その結果、道徳教育の推進にあたり、「何のために、どのようなことを大切にするとよいのか」をより精選・明確にしていく必要が生まれたのである。その際、私たちが、参考にするものが学習指導要領であることにも変わりはない。

これは愛媛の道徳教育においても同様である。

道徳教育の目標は、「子どもたちが生きる上で出会う様々な場面において、主体的に判断し、道徳的行為を選択し、実践することができるよう、道徳性に係る内面的な資質・能力である道徳性の育成を目指している」ことを指す。その中で私たちは、要となる道徳科に「学びがいのある授業」を見いだした。

それは、ねらいとする道徳的価値について「考え・議論する」中で、主体的・対話的で深い学びによって醸成されていくものと捉えている。そして、各教科等で行われる道徳教育を補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする特質に留意し、計画的・発展的に道徳科の指導を「学びがいのある授業」として、毎時間の地道な積み上げの下、研究を進めていくことを提唱している。

そのために、日々道徳教育の確かなマネジメントと、道徳教育の積み重ね（いわゆる「種まき」と呼ばれる道徳指導）、そして、学びがいのある道徳科の授業実践が、愛媛の子どもたちの「よりよく生きる基盤となる道徳性の育成」につながることを願っている。

今後は、「令和の日本型教育」を読み解き、「不易と流行」が融合された研究の方向性を提案していきたいと考える。

## 小学校の実践事例

# 中心発問から道徳的価値の自覚を促す授業の展開

愛媛県教育研究協議会 道徳委員会

研究部 河野 若菜(八幡浜市立白浜小学校)

## 1 授業実践の基本構想

本授業では、児童が道徳的価値の理解を基に、ねらいとする道徳的価値について、多面的・多角的に考えることができることを目的とした。

授業構成の段階では、教材「手品師」を活用して「誠実」の意義について考える学習を通して、児童から多様な価値観を引き出すことを意識して中心発問を練った。

展開案の中では、手品師の迷っている気持ちに共感させた上で、どのような心を働かせて判断しようとしたのかを話し合わせることで、物事を多面的・多角的に捉えさせることを意識した。そして、中心発問後に、児童から出てきた意見に共通していることを問うことで、「誠実」に対する児童の思いや考えを引き出そうと考えた。

また、児童が自己の生き方についての考えを深められるように、話し合い活動や振り返りの時間を充実させたいと考えた。そこで、中心発問後に少人数グループでの話し合い活動を取り入れた。話し合い活動では、納得した考えを伝え合ったり、互いの考えを聞いて組み合わせたり創造したりして、考えを練り合うようにさせる。これにより、各自が他者の多様な考えに触れたり、自分の考えをより明確にしたりすることができる。さらに、振り返りの時間を十分に確保して、自分の価値観と、みんなで話し合ってきた価値観とを重ね合わせながら自己内対話を行い、自己の生き方についての考えを深められるようにしたい。

## 2 授業の実際

(1) 主題名 誠実に生きる【A 正直、誠実】

(2) 教材名 手品師（「生きる力6」日本文教出版）

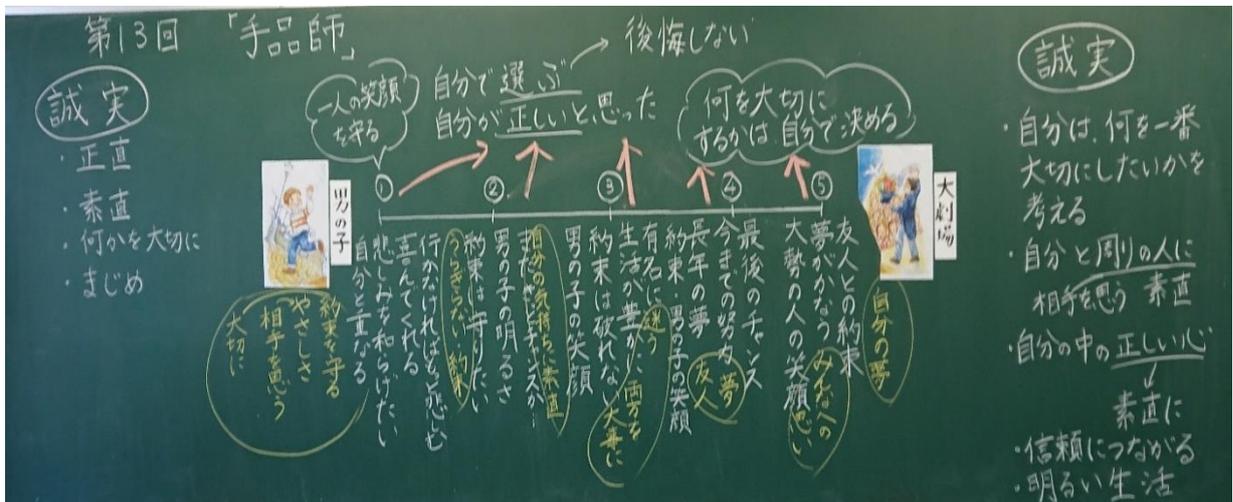
(3) ねらい

手品師が、大劇場への出演と男の子との約束で迷っている場面において、どのようなことを考えて決めようとしていたのかを考える活動を通して、自分の心と向き合い、自分自身に対して誠実に生きようとする道徳的判断力を育てる。

(4) 教材内容

腕はいいが、あまり売れない手品師がいた。その日のパンを買うのもやっとという生活であった。大劇場のステージに立つことを夢見て、腕を磨いていた。手品師は、一人ぼっちの男の子と出会い、手品を見せて、次の日も来ることを約束する。しかし、その夜に友人から大劇場への誘いの電話が掛かってくる。手品師は迷いに迷うが、友人の誘いを断り、翌日、たった1人の男の子にすばらしい手品を演じる。

(5) 授業の実際



### 3 指導の詳細

学習活動	発問(○)と実際の反応(・)	指導上の留意点(○)
<p>○ 教材を聞いて考える。</p> <p>○ 学習を振り返って、考えたことを書く。</p>	<p>◎ 迷いに迷った手品師は、それぞれどのような心を働かせて、決めようとしたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子の悲しみを和らげたい。・約束は守りたい。</li> <li>・有名になりたい。・長年の夢を叶えるチャンスだ。</li> <li>・大勢の人を笑顔にしたい。</li> </ul> <p>○ もし、大劇場を選んでいたら、誠実といえるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子との約束を破ったから、誠実ではない。</li> <li>・自分の幼い頃からの夢を選んだので、誠実。</li> <li>・男の子には誠実ではないが、自分の夢には誠実。</li> </ul> <p>○ ②③④は、誠実だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誠実だと思う。</li> </ul> <p>○ ①～⑤のどれも誠実だという意見が出たが、それぞれ、どんな誠実があると思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約束を守る。相手を大切に思う。・裏切らない。</li> <li>・迷う。両方を大事に思う。</li> <li>・自分の夢や友人、みんなに対する誠実。</li> </ul> <p>○ もし、男の子が来なかったとしても、後悔しないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で選んだことだから、後悔しない。</li> </ul> <p>○ ①～⑤に共通するものは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が正しいと思ったことを選べば後悔しない。</li> <li>・何を大切にするかは、自分で決める。</li> </ul> <p>○ 改めて、「誠実」とは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分は何を大切にしたいのかを考える。</li> <li>・自分と周りの人にも素直なことで、相手を思うことも誠実。</li> <li>・自分の中の正しい心に素直になる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誠実は、信頼につながっていき、生活が明るくなる。</li> </ul> <p>○ 今日の学習を振り返って、考えたことやこれから大切にしていきたいことを書こう。</p>	<p>○ 手品師の葛藤について、多面的・多角的に捉えられるよう、挿絵と心情メーターを活用する。</p> <p>○ 発問の中に「手品師が」という言葉を使わないことで、自分事として考えさせる。</p> <p>○ 必要に応じて、児童の価値観を引き出すための問い返しをする。</p> <p>○ 多様な価値観に触れさせるために、グループで話し合わせる。</p> <p>○ 発問の中に「手品師は」という言葉を使わないことで、自分事として考えさせる。</p> <p>○ 互いの考えを聞き合い、多様な考え方を認め合えるようにする。</p>

授業では、中心発問の場面において心情メーターを活用して、「誠実」について、様々な思いの視点から考えられるようにした。それぞれ、どのような心を働かせて判断しようとしたのか、また、それぞれにどのような「誠実」があると思うかを問い、整理して板書することで、「誠実」についての多様な価値観を引き出すようにした。また、共通するものを問うことで、考えを深めることができるようにした。

### 4 実践を振り返って

中心発問や問い返しにより、児童は、手品師が男の子との約束を選んだということ以外の状況における判断について考えることができ、物事を多面的・多角的に考えることができた。中心発問後に「どんな誠実があるか」「共通するものは何か」という深める発問をすることで、授業前に持っていた「誠実」についての価値観が、授業後に広がったり深まったりしていた。また、素敵な自分を見付けたり、「こうありたい」という未来への希望を持ったりしている児童が多かった。以上のことから、心情メーターを活用して様々な視点で考えたり、共通するものについて話し合ったりする場を設定したことは、児童が物事を多面的・多角的に考えたり、多様な価値観に触れたりすることに効果的であったと考える。さらに、グループでの創造的な話し合いを目指していきたい(資料1)。

男の子の方に行ったからです。私も同じ方を選ぶけど、手品師は幼いときからの夢でそれも二度とないかもしれないチャンスなのに、素敵だなと思いました。そして考えたことは、これからどう生きていこうかです。私は自分の中の正しい心があると気づいたので、選ぶことはむずかしいけど、自分の意見をきくと持ちたいです。

資料1 児童の振り返りカード

## 人間としての生き方について考えを深める道徳科の授業 － 多面的・多角的思考をきっかけにして －

愛媛県教育研究協議会 道徳委員会

編集部 岡田 由香里 (今治市立立花中学校)

### 1 授業実践の基本構想

多面的・多角的思考を生み出すためには、生徒一人一人が道徳的事象や道徳的価値についての自分の考えにじっくり向き合い、表現することが前提となるだろう(①個の学び)。その上で、他者と対話し、互いに他者の考えを聴き合い、自分の考えと照らし合わせながら自分の考えを見詰め直していくことが、より深い学びへとつながっていくであろう(②協働的な学び)。これら二つの学びの往還を繰り返すことにより、「人間としての生き方について考えを深める」生徒の姿が実現していくと考える。

本実践は、上記「二つの学び」をきっかけに生徒が道徳的価値と向き合い、より深く学んでいけるような道徳科の授業(学びがいのある授業)の実現になることを考え、授業構想を行った。

### 2 授業の実際

- (1) **主題名** 神秘の世界へ【D 感動、畏敬の念】
- (2) **教材名** ハッチを開けて、知らない世界へ(「新訂 新しい道徳3」東京書籍)
- (3) **ねらい**

宇宙空間という音も空気もない「命のない世界」で、作者が感じた「生命感」に共感することにより、美しい地球や神秘的な生命という、人間の力を超越したものに対する尊敬の心情を育てる。

- (4) **教材内容**

本教材は、宇宙飛行士の野口聡一氏が初めて船外活動を行い、「宇宙から地球を見た」ときの思いを綴った手記である。船外へ出た野口氏が「あざやか」に感じたのは、「静けさ」であった。命が存在しない闇の中に、地球だけが青白く光り輝き、「生きているよ。」と訴えている。それを見詰める「ぼく」。命の気配がしない宇宙空間の中で、ぼくと地球は、対等な一対一の存在。そこで初めて、自分も地球の一部であり、命そのものであることを実感するのである。

- (5) **授業の実際**

私は、理科の授業で、国際宇宙ステーション内の野口氏による実験映像の動画を授業で見せたことがあった。その授業のことを想起させながら、「はじめて地球を見たとき、野口さんはどんなことを思ったと思うか」を直感的にロイロノートのテキストに記入させ、共有した。それから、本時のねらいを提示し、教材を読んだ。「野口さんが、地球を見て『対等な一対一の存在である』と感じたこと」を確認した上で、「あざやかな地球の姿は、野口さんにどんなことを語り掛けてきたのだろう。」と問うた。一人一人じっくり考えさせ、色画用紙に自分の考えを書いて黒板に貼らせた。その後、その考えについて、問い返しを行いながら、全員に考えを聞いた。そして、「神秘に感じることは何か。」を問うことで、三つの理解を図ることを促した。

終末では、他の宇宙飛行士が地球を見たときの言葉を紹介した後、今日の授業で学んだこと、感じたこと、考えたことを、「地球」という言葉を使って一人一人に書かせた(資料1)。



資料1 本時の板書

### 3 指導の詳細

学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	○指導上の工夫 ◆評価【方法】
<p>1 主題に関する問題意識を持つ。</p> <p>2 教材を読み、話し合う。</p> <p>3 自分自身を振り返る。</p>	<p>○ 野口さんは、初めて地球を見たとき、どう思っただろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美しい ・青いな ・青い惑星だ</li> <li>・青くて丸いな ・ファンタスティック</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>あざやかな地球の姿は、野口さんにどんなことを語り掛けてきたのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・君のすんでいる星はきれいだろ。</li> <li>・生命は美しく大事だということ。</li> <li>・美しいだろ、お前も美しく生きろよ。</li> <li>・地球は生きていて、一つの生命のようだという事。</li> <li>・地球に存在する生命の尊さ。</li> <li>・命が存在していることのすばらしさ。</li> <li>・自分は地球の一部に過ぎない小さな存在である。</li> <li>・この星の中には、数えられないほどの命と暮らしがあるのだ。</li> </ul> <p>○ 今日の授業で学んだこと、感じたこと、考えたことを、「地球」という言葉を使って書いてください。</p>	<p>○ 直感的に概要を捉えさせるために、10文字以内でロイロノートに書かせる。</p> <p>○ 一人一人の考えに触れられよう、色画用紙の裏面に名前、表面に考えを書かせる。それを順に読んだら裏返すことで、全員の考えを共通理解させる。</p> <p>○ 生徒の考えを聞いた後、問い返しを行うことで、深く考えるきっかけとなるようにした。</p> <p>○ 他の宇宙飛行士が地球を見たときの言葉を紹介することで、地球を見たときの感動を多面的・多角的に捉えられるようにした。</p> <p>◆ 人間の力を超越したものに対する心情について、自分のこととして考えることができたか。【ワークシート】</p>

### 4 実践を振り返って

多面的・多角的思考を生むために、次の2点を工夫した。

一つ目は、中心発問に対する全員の考えを書かせた後の問い返しである。一人一人の考えを聞いていると、表現は異なるが、感動に関する捉えが多かった。そこで、ある生徒に、「もし、あなたが同じ状況なら、船外活動をしたい?」と尋ねると、「いいえ。」という言葉が返ってきて、なぜかと問うと、「こわいから。」と言う。したがって、他の生徒に「こわいと思う人?」と聞くと、約4割の生徒が手を挙げた。その際、「畏敬という言葉、聞いたことある?自然って恐いのかな?」と問い掛けた。

二つ目は、野口さん以外の宇宙飛行士の言葉を紹介した。その一例は、次のとおりである。「宇宙の深淵は、退屈になるほど一様な暗黒だ。私たちの注意を引き付けるのは、その暗黒ではない。暗黒の中で青い光輝に包まれて浮かぶ地球なのだ。(マリョーグ・マカロフ)」

初めて道徳科の授業を行った学級であったが、日ごろから理科の授業をしている生徒だからか、深く考える生徒の姿も見られた。生徒の声を以下に一部紹介する。

【生徒の声(ワークシートより)】

- 地球の美しさと人間は、深い関わりがあるのではないかと思いました。死がまわりにたくさんある中で、地球と人間という「生」の存在がある対比が、とても美しく感じました。私も行ってみたいです。
- 人間は完全に地球に依存している。僕たちは当然宇宙服なしでは宇宙空間で生きられない。地球外では活動できない。それなのに、地球の環境を壊し続けている。

生徒の反応を見ていったとき、初めは単に「青い」といった印象を持つ生徒が多かったのだが、他者(仲間や教材)の考えや、教師による問い返しをきっかけに、今一度振り返って深く考えようとする生徒の姿があった。多面的・多角的思考を実現するには、教師が道徳的価値について自らにじっくり問い掛けるとともに、生徒の思考を表出させるような問いを工夫する必要がある。

## Ⅱ 「第26回 愛教研小・中学校道德教育研究大会」記録

### <研究大会要項>

- 1 主催 愛媛県教育研究協議会
- 2 後援 愛媛県市町教育委員会連合会  
松前町教育委員会
- 3 日時 令和5年8月8日(火)
- 4 場所 松前総合文化センター
- 5 研究主題 よりよく生きるための基盤となる道德性を養う道德教育の研究  
－ 学びがいのある道德科を要として －

### 6 日程

9:50 10:20 11:50 13:00 13:40 13:50 15:30 15:40

受付	課題別分科会	昼食	開会行事 基調提案	休憩	特別講演	閉会行事
----	--------	----	--------------	----	------	------

### 7 特別講演

演題 「道德教育と『特別の教科 道德』の充実に向けて」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官

井上 結香子 先生

### 8 課題別分科会

分科会 【対象】	内容	提案者	指導助言者
第1分科会 【小・中】	道德科講座 授業づくりの基本	西条市立国安小学校 校長 山岡 健二	
第2分科会 【小学校】	小学校部会 提案・演習	松山市立久枝小学校 教諭 三宅 浩司	愛媛県教育委員会義務教育課 指導主事 赤松 聖則
第3分科会 【中学校】	中学校部会 授業提案	伊予市立港南中学校 主幹教諭 重松 直綾	愛媛県教育委員会中予教育事務所 指導主事 友澤 美和

#### 【課題別分科会の紹介】

##### 第1分科会【小学校】【中学校】

学習指導要領解説道德編において、道德科の目標は以下のように示されています。

よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

本分科会では、この目標に基づいて道德科の授業づくりの基本を学び、授業改善を図りました。

##### 第2分科会【小学校】

本分科会では、道德科の指導における多面的・多角的な思考を促す工夫について、演習を取り入れながら、研修を深めました。

##### 第3分科会【中学校】

本分科会では授業改善を重ねた実践について、授業を体感していただいた上で、授業改善のポイントについて、研修を深めました。

## 第1分科会 授業づくりの基本【道徳科講座】

提案者 西条市立国安小学校 校長 山岡 健二

### I 研修の主な内容

- 道徳教育の目標
  - ・ 自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。
- 道徳科の目標
  - ・ よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
  - ・ 道徳教育の目標も道徳科の目標も道徳性を養うて同じである。
  - ・ 道徳科の目標は道徳科のねらいと授業の進め方を明確に示しており、極めて重要である。
- 学校全体で取り組む道徳教育の方策
  - ・ 道徳科の授業は学校における道徳教育の要の役割を果たす。
  - ・ 全てを学級担任任せにするのではなく、他の教職員と協力的な指導を行う。
  - ・ 確実な実施に向け、掲示物、ローテーション授業、学年会等を活用する。
- 道徳科授業の問題点と授業の在り方
  - ・ 道徳科の授業を教師が占領しすぎている。→子どもと共に考え、悩み、感動を共有していく。
  - ・ 教師が発問し子どもが反応することを繰り返している。→子どもの問題意識を大切にする。
  - ・ 一人一人の考えの違いをそのままにしている。→多様な考えを十分に生かし、とことん話し合い、一人一人が自分なりの納得解を得られるようにする。
- 質の高い指導方法
  - ・ 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
  - ・ 問題解決的な学習
  - ・ 道徳的行為に関する体験的な学習
- 資料提示の工夫
  - ・ 教材との出会わせ方を工夫し、内容をしっかりと理解させたり、問題意識をもたせたりする。
- 発問の工夫
  - ・ 発問を発想する軸(主人公に対する子どもの立ち位置)を活用して、四つの発問を考え、クラスの実態に合わせた発問を行う。



- ・ 価値理解を深めるために、事前に多くの問い返しの発問を用意しておく。

#### ○ ICT の活用

- ・ 教材提示での活用、導入時でのアンケート、中心発問や振り返りの場面でのそれぞれの考えの共有、デジタルスケールの活用、記録の継続による変容の確認等で活用が可能である。

#### ○ 道徳科の評価

- ・ 教師にとっては指導に生かすもの、児童生徒にとっては成長につながるものとする。
- ・ 他の児童生徒との比較ではなく、認め励ます個人内評価をする。

## 2 研修後の質問

研修後、参加者から「研修の中で取り上げた葛藤がある場面の発問は参考になったが、自然愛護など葛藤がない場合はどのように授業を進めたらよいか。」との質問を受けた。道徳科で扱う教材には、葛藤教材以外にも知識理解を深める教材、感動を引き起こす教材などいろいろなものがあるので、今回示した方法ではうまくいかないこともある。中心教材以外に複数の教材を用意するのが効果的な場合もある。授業のねらいを明確にして、発問を考えていくことが大切である。

## 3 アンケートの所感

- 道徳科の授業改善をする上で重要なポイントが分かり、残りの夏季休業で教材研究をしようという意欲が高まりました。特に、主発問や問い返しの発問を用意すること、ICT の活用で活動や評価の方法に様々な選択肢が生まれることを知りました。とても有意義な時間でした。
- 道徳科の授業にはたくさんの課題を感じており、子どもの問題意識を大切に子どもと共に考え、悩み、感動するという視点を大切にしたいと感じた。授業づくりの基本として、問題解決的な学習や体験的な学習など多様な形があり、問い返しの発問や ICT の活用についても、具体的に教えていただき、今後に生かしていきたいと考えた。おおくりなまとめとしての個人内評価を行う際に、記録を蓄積することが重要であると分かり、子どもの成長を認め励ます評価を目指したい。

## 4 成果と課題

本分科会は道徳科の授業に不安を感じている人や道徳科の授業を基礎・基本から学びたい人を対象として計画した。道徳科の目標に基づいて、授業づくりの基本を学び、授業改善につなげていただきたいとの思いで実施した。アンケートからある程度の成果は感じることができた。

ただ、限られた時間の中で、多くの内容を詰め込み過ぎため、十分理解ができない部分もあったことと思う。内容を精選するとともに、さらに演習を取り入れるなど、より主体的で対話的な研修になるよう改善する必要があると感じた。



## 第2分科会 提案・演習【小学校】

提案者 松山市立久枝小学校 教諭 三宅 浩司

### 1 発表のテーマと概要

本分科会では、「多面的・多角的な思考を促すために教師が大切にしたいこと」をテーマとして提案・演習を行った。第1分科会が、「道徳科講座 授業づくりの基本」であることを踏まえ、第2分科会である本分科会では、より踏み込んだ実践的な指導の工夫を提案したいと考えた。そこで、道徳性の諸様相の一つである「道徳的判断力」を育成することに資するであろう「多面的・多角的な思考」を促す指導の工夫について、「教材の六つの読み方とそれに伴う発問」を中心に参加者の先生方と研修を深めた。

### 2 発表の内容

#### (1) 多面的・多角的な思考とは？

「多面的に考える」

→道徳的価値そのものもつ意味のさまざまな側面を考える。

「多角的に考える」

→ある道徳的価値や道徳的問題を考える条件や観点の多様性を考える。

(高宮正貴『道徳的判断力を育む授業づくり-多面的・多角的な教材の読み方と発問-』北大路書房、2022年)

#### (2) 六つの教材の読み方とそれに伴う発問(※発表スライド抜粋)

**A：道徳的価値の意味、成立条件を読み解く**

教材を熟読 ↔ 『解説』を読む

焦点化したい道徳的価値の意味、成立条件を定める。

そのために…

学年代階ごとの系統性をふまえる。 「指導の要点」から気付かせたい、考えさせたいポイントを把握する。

**B：複数の価値観の重みの違いを読み解く**

規則の尊重 約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること

「雨のバスでいりゆう所で」を例にとると…  
雨の日にたばこ屋さんの軒下に並んで待つことは、「きまり」と言えるのか？

『解説』を読むと… 「社会生活をする上で守るべき公德」

価値観A：決められた規則でなければならない従わなくてもよい。 ↔ 価値観B：決められた規則でなくても従うべきである。

**C：道徳的価値の意義（理由、効用・目的）を読み解く**

理由 「なぜ、主人公は〇〇したのか？」  
「きまりは何のためにあるのか？」

効用・目的 結果・帰結 成長・変化  
短期的な結果 長期的な結果

「節制するとどんなよいことがあるの？」  
「努力するとどんなよいことがあるの？」

児童生徒の未来の視点から考えると、「自己実現」という目的が出てくる可能性がある。

**D：「人間理解」の視点で読み解く**

人間理解 道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解する。

「容易に親切にできない人間」が描かれている場合…  
「どうして親切にできないのか？」  
「どうしたら親切になれるのか？」

阻害条件 価値の実現を妨げる条件  
「努力を挫くものは何だろう？」

促進条件 価値の実現を促進する条件  
「努力できるように必要な心構えは？」

**E：教材で描かれている状況の条件を変える（条件変更）**

教材のなかで描かれている設定や条件を変えることによって、対象・相手・方法・時などの違いに応じた価値判断を問う。

「登場人物は〇〇したが、もし△△というように、条件がちがったとしたらどうだろう？」

「条件変更を用いると「〇〇の場合は正しいが、△△の場合は正しくない」と言った議論も生まれる。道徳的価値が「どんな対象について、どんな相手に対して、どんな方法で、どんな時に、どんな条件のもとであれば正しいのか」を多角的に分析したり、批判的に考えたりすることができる。

**F：個別の状況下での価値理解の適用の是非・あり方を考える**

教材そのものをどう読むかということではなく、教材に描かれた場面とは異なる場面を意図的に想起・提示する。

Eとの違い  
教材から離れ、教材とは異なる場面を提示することによって、対象・相手・方法・時などの違いに応じた価値判断を問う。

教材とは…  
特定の条件や状況における特定の行為のあり方や考え方を示したもの → ~~教材のきまり~~

(3) 六つの教材の読み方とそれに伴う発問を取り入れた模擬授業

第5学年の教材「ほのぼのテスト」(教育出版『小学道徳5 はばたこう明日へ』)を用い、内容項目「B 親切、思いやり」を扱った模擬授業を行った。「規則尊重」という価値と「親切」という価値の衝突や、相手の重荷にならない親切について、具体的な発問等を交流することで多面的・多角的な思考を促す工夫を参加者の皆様と考えていく時間になった。



3 指導助言

(1) 明確な指導観に基づいた授業づくりの大切さ

三宅教諭の提案を受け、「教師の価値観の根っこを耕す」ことが大切であると感じた。つまり、教師自身が道徳的価値の捉えを明確にしておく必要があるということである。例えば「友達関係のよさに気付く」であれば、「友情」という価値を一度砕き、価値に含まれる多様な考え方を教師が具体的に整理する。その過程で、教師自身が「友情」という一つの価値を多面的に捉えていく。ここで具体化した「友情」に関する多様な考え方と、子どもの実態をすり合わせていくと、授業で焦点化したい内容が明らかになり、授業構想の骨子が見えてくる。道徳的価値の捉えを明確にするためには、学習指導要領解説と教材を往還しながら読み進めていくことが大切である。

(2) 道徳的判断力を育てる授業づくり

T もし、お客さんの中に特別に急いでいる人がいるのを知っていたらどう?	条件変更
S うーん、バスを止めない方がいいと思う。	判断
T へー。どうして?	
S もしバスを止めたら、急いでいる人がイライラするでしょ。おじいさんもそれを見て、自分のせいで...と思ってしまって、いい気持ちはしないと思う。	判断の理由
T それを見ていた周りの人や運転手さんは、どんな気持ち?	
S 何か複雑というか、微妙というか...	
T なるほど。じゃあ、そもそも親切ってどんな行いなのかな?	
S 笑顔になるような行い	
S 楽しい気持ちになるような行い	
T だれがそんな気持ちになるの?	親切をした人、された人、周りの人 みんなが「いい気持ち」
S みんな	
T みんなってだれ?	
S 親切にした人やされた人、それを見ている人たちかな	「親切」についての理解を深める

学習指導要領解説には、道徳的判断力とは「様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力」と書かれてある。三宅教諭の授業では、「様々な状況下」に着目した授業展開の工夫により、道徳的判断力を育てようとしている。今回であれば、教材の中に描かれている「様々な状況」について、その条件をあえて変更した発問をすることで、教材の主人公ではなく、子ども達自身が判断した

り、判断した理由を考えたりしなければならぬ状況をつくっていた。条件変更をすることによって、授業のねらい、つまり、「親切」の価値に対する深い理解や多様な解釈につなげることが大切である。したがって、ただ闇雲に条件変更をすればよいということではない。今回のように指導観を明確にした上で、発問等の指導方法を工夫していくことが大切である。

(3) 指導の技

三宅教諭の授業は、つながりを生み出す指導方法の宝庫である。三宅教諭は子ども相互のつながりを生み出すために、まず発言している子どもの声を丸ごと受け止めている。次に、一人の子どもの発言を他の子どもがどう聞いているかを、表情や体の動きに着目しながら観察している。そして、発言内容を媒介として、発言した子どもと他の子どもをつなぐ働き掛けをしながら、子どもの言葉、声で授業を展開していく。このような技は、三宅教諭の子どもと共に考え悩み、感動を共有していくという基本姿勢に支えられている。「子どもが、“正しい答えを知っている権威者によって支配されている”と感じている限りは、主体的な判断を下すことは難しい」という言葉がある。三宅教諭のように子どもを丸ごと受け止める、共に考えるという姿勢を大切にしながら、今後も道徳の授業を楽しみながら行ってほしい。

第3分科会 授業提案から主発問や授業展開の在り方を考える【中学校】

提案者 伊予市立港南中学校 教諭 重松 直綾

I 授業提案 (※略案抜粋)

- 1 教材名 海と空 - 榎野の人々 (日本文教出版)【C 国際理解、国際貢献】  
 2 ねらい 授業でそれぞれの救助に携わった人々の思いについて考えさせることを通して、どの国の人々も同じ人間として尊重する人間愛の精神に基づき、国際人として共生していこうとする態度を育てる。  
 3 本時の展開

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ◎評価
導入	1 「私」がイランから脱出した事実とその背景であるエルトゥールル号遭難についてその関係性を理解する。	○ 中東の地図と日本の地図を掲示、位置関係と飛行機や船のイラストを用いて解説する。(プロジェクターかテレビ投影)	・それぞれの史実について理解し、登場人物と共感できるようにする。
展開	あらゆる人が共生する国際社会を実現するために大切なこととは、何だろう。		
	2 教材「海と空」を読んで話し合う。 (1) 範読を聞き、榎野の人々がトルコの人々に行ったことを確認し、トルコの人々の思いについて考える。  (2) 榎野の人々がトルコの人々に行ったことを確認し、榎野の人々の思いについて考える。  (3) 榎野の人々とトルコの人々の思いの共通点について考える。	○ なぜトルコの人々は日本人を助けてくれたのだろう。 ・日本が昔助けてくれたから。 ・過去に日本がしてくれたことへの恩返し。  ○ 榎野の人々が行ったことは何だろう。 ・食料をあげた。 ・着るものを渡した。 ・一晩中体をさすって温めた。  ◎ 自分の生活を犠牲にしてまで、なぜここまでできるのだろう。 ・目の前の困っている人を助けたい。 ・自分たちができる最大限をしたい。  ○ トルコの人たちが助けたのは、恩返しからだけだったのだろうか。 ・祖先が日本の人に助けもらったことで、困っている人がいたら助けることが、当たり前になっていた。  ○ 榎野の人々とトルコの人々に共通する思いはなんだろう。 ・誰彼の別なく助けたい。 ・大切な命を守りたい。	・イランがどれだけ危険だったかを併せて伝える。  ・榎野の人々も厳しい状況の中であったことを伝えることで、トルコの人々と同じであることに気付かせる。 ・「生活を犠牲にする」ことに着目させることで、実現させるのは難しいという揺さぶりを掛ける。 ・トルコの人々の思いを多面的・多角的に捉えることができるように、切り返し発問を準備しておく。  ・机間巡視の際、行為の奥にある思いを考えることができるように適宜助言する。
終末	3 今日の学習を振り返り、課題について自分自身で考えたことをまとめる。	○ あらゆる人が共生する国際社会を実現するために大切なこととはなんだろう。	・考えを共有するために、タブレットを活用する。 ◎ どの国の人々も同じ人間として尊重する人間愛の精神に基づき、国際人として共生していこうとする態度が育ったか。(ワークシート)

4 研究の視点

榎野の人々とトルコの人々の共通する思いについて話し合ったことが、あらゆる人が共生する国際社会を実現するために大切な態度を考えるのに有効であったか。

## 2 研究協議の様子

模擬授業を実際に行った後、授業者が持っている二つの疑問点について質疑応答が行われた。

### (1) 主発問について

Q 教師の問い返しに対する生徒の生の声や、その素直な思いを板書や指導にどのように生かしたのか。

A 小さなつぶやきは授業の中でたくさん聞こえたので、再度話し合いをさせた。それらを板書で残せたらよかったができなかった。

Q 助けなかったらどうなったのかという声はなかったのか。

A 助けなかったら後悔するという生徒の意見が出たが、教師側の準備ができておらず、問い返しがいまできなかつた。

ここで何か問い返していれば、違った展開が生まれていたのではないかと反省している。

○ 主発問はこの形で良かったが、問い返しや板書の仕方に工夫があれば良かった。

### (2) 樫野の人々とトルコの人々の共通点を考える際のより良い展開について

Q 共通する思いを考える際の発問や展開はどのようにすれば良かったのか。

A 終末にICTを使って他の国の事例などを挙げると考えやすいのではないか。

A 補助資料を使って、なぜトルコの政府が日本人を優先して飛行機に乗せたのかが分かるようにすればいいのではないか。

A 樫野とトルコの違い(文化等)を見つけると共通点に気が付くのではないか。A 主発問の時に樫野の人の気持ちになって考えた後に、その行為の理由を話合うことで、国際理解に繋げることができるのではないか。

A 国際貢献は犠牲の上で成り立っているのではなく、やりがいや生きがいにつながることを伝えるべきではないか。自分がしたことが喜びであると考えられることが大切なのだと思う。

○ 授業の中で様々な価値が出てくるが、ねらいが「国際理解、国際貢献」であるので、「共生」というのがこの授業で押さえるべきことになる。自分のできる範囲で何かしようと考えられるような展開にしていきたい。



## 3 指導助言

授業者が学習指導要領を読み込まれ、内容項目(道徳的価値)についての明確な考えを持ち、目の前の子どもの実態を踏まえた上で、ねらいを設定されていた。使用する教材の特性やそれを生かす具体的な活用方法、学習指導過程、指導方法等、多くのヒントが得られる実践であった。

本実践から、話し合いを活性化させるには、共に考えたいテーマの設定、話し合いの進行状況を示したり考えを類型化したりする板書の工夫、ICTや思考ツールなどの活用が有効であることを参加者と共に確認することができた。また、生徒の思いや考えを受け止め、さらに考えを広げたり深めたりするために効果的な問い返しをするなど、ねらいに迫るための教師のコーディネートについても考えることができた。

樫野とトルコの人々の共通点を考えた後の展開については、教材名にも関わらず、「海」で救った樫野の人々、「空」で救ったトルコの人々であることから、教材文の「『海と空』それが水平線の一つになっていた。」の表現に着目させ、「その先に見たものは・・・」について、自分自身と向き合って考えさせるのも一つの方法だと思う。

貴重な実践を示していただいた。各校で、道徳教育の要である道徳科の時間を、人の温かさや人生の素晴らしさ、自分自身のよりよい生き方について子どもたちと共にじっくり考え語り合う時間、子どもたちが心待ちにし、教師自身も楽しめる時間としていただきたい。

## 特別講演記録

### 演題「道徳教育と『特別の教科 道徳』の充実に向けて」

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 井上 結香子先生

#### 1 はじめに

今日は「道徳教育と特別の教科道徳の充実に向けて」というテーマでお話いたします。午前中の分科会の様子を拝見し、愛媛の方々、学習指導要領解説等を踏まえ、自分たちの学校や児童・生徒の実態に応じて工夫・改善を積み重ねられてきていることが伝わって参りました。



#### 2 今の時代において求められているもの

「令和の日本型学校教育」の「日本型学校教育」とはどのようなものでしょうか。教育を大きく「知育、徳育、体育」で捉えると、諸外国においては「徳育」と「体育」は、例えば教会や家庭、スポーツクラブなど学校外で担うことが少なくありません。日本では学校教育が知育、徳育、体育を一体的に担っており、そのことによって子供たちの「人格の完成」を目指しています。「人格の完成」は、教育基本法第1条「教育の目的」に示されています。学習指導要領では、「人格の完成及び国民育成の基盤となるのが道徳性であり、その道徳性を養うことが道徳教育の使命である」と示されています。令和の時代に入り、このような日本型学校教育のよさを受け継ぎつつ、質的に発展させることが求められています。

「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月)答申の中では、子供たちが生きる未来について認識を、「Society5.0 の時代の到来」、「先行き不透明な予測困難な時代」の二つにまとめています。「Society5.0 で実現する社会」では、人工知能やロボット技術等の発展により、様々な社会課題が解決されることが予想されています。このように、人工知能やロボットが発展し、活躍する社会において、わたしたち人間の役割はどうなるのでしょうか。数年前には、人工知能やロボットの発展により、人間の仕事が奪われるのではないかといった指摘もありました。2018年のある新聞記事に掲載されていたカフェを紹介します。コーヒー豆をひき、おいしいコーヒーを入れて、出してくれるところまで全てロボットがやってくれるカフェです。一方で、2018年の別の新聞記事には、あるレストランが紹介されていました。このレストランの名前は「注文をまちがえる料理店」といいます。ここで働く従業員は全員認知症の方とのことです。認知症の方なので、たまには注文したものとちがうものが運ばれてくることもあるかもしれない。しかし、なんだか心が温くなるレストランなのかもしれません。対照的なようにも見えるカフェとレストランですが、人間社会には両方の要素が必要なのではないかと感じています。人工知能やロボットの発展によって、社会課題を解決していくということも大切なことです。しかし一方で、例えば「効率化」や「生産性」といった指標や物差しだけで世の中を考えていくことには慎重でなければならないとも思います。やはりそこには、人間のもつ「道徳性」を大切に世の中ですなければならないとも考えますが、皆さんはいかがでしょう。

このような社会において、子供たちが身に付けるべき資質・能力について、答申では「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」と示されています。このような資質・能力を子供たちに育成していくために必要なこととして「学習指導要領の着実な実施」と「ICTの活用」が挙げられています。そしてその中で課題とされていることが「正解主義や同調圧力への偏りからの脱却」と「一人一人の子供を主語にする学校教育の実現」でした。

「正解主義や同調圧力への偏りからの脱却」と道德教育との関連について、学習指導要領解説では「道德教育の本来の使命に鑑みれば、特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するように指導したりすることは、道德教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない。むしろ、多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、人間としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢こそ道德教育が求めるものと言える。」と示されています。道德教育で扱う事象は、正解が一つに定まらない事象ばかりです。今の世の中は、特に例えばインターネット上では、黑白はつきりさせ、相手を断罪するようなことが少なくありません。不寛容な社会になってきているのではないかと指摘もあります。しかし、この解説で示されていることは、あらためて私たちが胸に刻み、道德教育を推進していく必要があると考えます。第1分科会では「道德科の在り方」、「道德科の授業で感じることを説明され、その中で「子供と共に考え、悩み、感動を共有していく」ことを大事にされていることが伝わってきました。道德教育においては、大人だから答えが分かっているということはありません。教師である私たち自身が、考え続ける姿勢を示す、子供たちと共に考えて付けていく姿勢を示すことが、これらからの道德教育においては、ますます求められるのではないかと考えます。

もう一つ課題として挙げられた「一人一人の子供を主語にする学校教育の実現」については、これまでも道德教育では大事にされてきたところだと思えます。学習指導要領解説では、道德科の指導の基本方針として、道德科の特質を理解することが挙げられています。道德科の目標には、「児童(生徒)一人一人が、ねらいに含まれる一定の道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習」を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間であることが示されています。まさに、一人一人の子供を主語とすることが道德教育では大切にされていると確認することができると思えます。このことは、先ほどの基調提案でも確認していただきました。

### 3 道德教育の充実に向けて

道德教育推進教師の位置付けと管理職のリーダーシップについて確認します。道德教育推進教師とは、「道德教育の目標を踏まえ、道德教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に道德教育の推進を主に担当する教師」と示されています。校長先生は、リーダーシップを発揮され、道德教育推進教師が活躍できる環境を整えるとともに、推進教師の先生とのコミュニケーションを密にしていきたいと思えます。道德教育推進教師の先生方からは、よく「つなぐ」という言葉をうかがいます。例えば、「道德教育と道德科をつなぐ」、「道德教育と家庭や地域、保護者の方たちをつなぐ」、「学校の先生方をつなぐ」など、コーディネーターの役割を果たしたいと話す先生が多くいます。また、「校内研修を充実させたい」、「ファシリテーターの役割をしたい」、「若手の先生に道德科の授業のアドバイスをしたい」という声もよく聞きます。推進教師の先生を中心に、道德教育についての話題を普段から気兼ねなく話せるような職員室にしていればと思えます。道德教育は推進教師や管理職の先生方だけで行うものではなく、全教師が関わって行うものです。学校において、道德教育推進教師を中心にカリキュラム・マネジメントの視点から学校の道德教育の発展のためにどういうことができるかということを一一人一人考えていただければと思えます。

令和3年度道德教育実施状況調査によれば、「道德教育の全体計画作成に当たり留意した点」について小・中学校対象に聞いたところ、「学校の教育目標を踏まえ、学校として育てようとする児童生徒の姿が明らかになるよう道德教育の重点目標及び各学年の重点目標を示した」、「校長先生の方針の下に道德教育の全体計画を作成した」、「児童生徒や学校、地域の実態と課題、教職員や保護者の願いを踏まえられるようにした」の3つが高い割合で回答されており、多くの学校で校長先生の方針の下に学校として育てようとする児童生徒の姿を明らかにするとともに、児童生徒、学校、地域の実態や課題を把握して、教職員や保護者の願いを踏まえられるよう留意して全体計画を作成していただいていることが伝わってきます。「道德教育推進教師が重点を置いて取り組んでいること」についての回答の割合が高かった

のも「諸計画の作成について」でした。道徳教育推進教師そして管理職の先生を中心に、各学校の実態、課題に応じて重点的に焦点化して取り組むべき事項を明らかにした上で、重点を意識して取り組んでいただきたいと思います。

道徳教育に係る諸計画の作成については、留意していただきたいことが3点あります。本調査で、「道徳科の年間指導計画を活用しやすいものとするための工夫」について質問したところ、「児童生徒の実態に即して適宜計画内容を変更するなど弾力的に取り扱った」という回答の割合が小・中学校ともに最も多くありました。諸計画の活用にあたっては、児童生徒の実態を踏まえ、また時々の状況に応じて弾力的に運用するなどの対応は大切なことです。しかし、弾力的に運用することで、計画の確実な実施が損なわれたり、計画の実効性が低下したりすることのないようにご留意ください。2点目は、本調査で「道徳教育の全体計画の作成にあたり留意した点」について聞いたところ、中学校では「別葉を作成した」という回答の割合が小学校に比べ10ポイントほど低くなっていました。また、「道徳教育充実のために学校として行った取組」について、「各教科や体験活動において、道徳科の内容項目との関連を意識して指導を行った」という項目を、全体計画の別葉を活用することを例に挙げて聞いたところ、中学校は小学校に比べ15ポイントほど低くなっていました。また、「道徳教育に関わる体験活動の充実を図った」についても、中学校では小学校に比べ7ポイントほど低かったところです。以上のことから、中学校では特に、道徳教育の全体計画の別葉の作成や、その活用において工夫が求められると考えられます。例えば、各学校で設定している重点とする内容項目に焦点を当て、別葉を作成し、各教科等や体験活動等で生かしていくことなどが考えられます。3点目は、「道徳教育の全体計画作成に当たり留意した点」について、「次年度の計画に生かすための評価の記入欄を設けた」という回答の割合が、小・中学校ともに10%前後にとどまっており、「その他」と「特になし」を除くと最も低い項目でした。道徳科を要とする学校の教育全体を通じて行う道徳教育においては、カリキュラム・マネジメントの視点が欠かせません。年度当初に道徳教育に係る諸計画を配付して、説明することはもちろん、長期休業の機会などに、計画を生きたものにするための工夫として、例えば、学年会や分掌で話題するなど、改善していただきたいと思います。

「道徳教育を推進する上での課題」について聞いたところ、「学校の道徳教育の重点や推進すべき方向について教師間での共通理解や連携を図るための機会の確保」という回答の割合が最も高かったところです。自由記述には、「道徳教育に対する教職員間の温度差がある」、「若い先生は頑張っているけれど、学校や学年全体での指導の共通認識が不足している」、「各教員の道徳教育の捉え方に差がある」などが挙げられました。共通理解や連携を図るための機会の確保については、「短時間で」、「こまめに」、「午前中に」というのがキーワードになるかもしれません。

学校では、具体の児童生徒の姿として「目指すべき生徒像、児童像」を共有できているでしょうか。可能な限り多くの先生に関わってもらい、道徳教育の重点目標を設定する必要があります。これが共通実践に向けた目線合わせとなります。そのためには、複数年で、段階的に計画的に行っていくことも考えられます。例えば、児童生徒の実態の把握について、授業で見られる児童生徒の姿を担任の先生や、中学校であれば各教科担任の先生から聞き取ったり、学校行事や休み時間、部活動で見られる姿を学年会で話題にしたりするなどが考えられます。また、先ほどの基調提案では「家庭地域との連携、つながり」について、例えば、「道徳通信の発行」や挨拶運動について家庭にも伝えるというような実践が紹介されました。学校からの発信とともに、保護者や地域で見られる児童生徒の姿や、保護者や地域の願いをウェブアンケートで把握することも考えられます。具体的に「児童生徒の姿を把握する」ことが指導の方針の設定につながります。というのは、目標とする児童生徒の姿と今の実態とのギャップを埋めるための方策を考えることで、道徳教育の課題が把握され、その上で指導の方針を考えることができるようになるからです。

また、道徳教育に係る教員の共通理解や連携については、先ほどの基調提案で「別葉を職員室に貼り出す」ことが紹介されていました。例えば、別葉を職員室に掲示し、指導できた項目をマーカーでチェック

をしていくと、自然と「何ができて、何ができていないのか」全体共有しやすくなることが考えられます。道徳教育に関する新たな指導場面が出てきたら、朱書きで別葉にその都度追記していく、ということをしていくと、全教職員が関わって次年度に向けた計画の改善、充実を図ることになります。諸計画については、完成版の共有だけでなく、プロセスの共有を意識していただきたいと思います。

#### 4 道徳科の授業の充実に向けて

道徳科の授業を楽しんでいらっしゃいますか。第1分科会では、道徳科の授業で心掛けていることの一つに「楽しい授業を心掛ける」が挙げられていました。いろいろな楽しみがあります。学習指導案の検討をしていた第3分科会では、「発問をよりよいものにしていくためにどうしたらよいか」と先生方が熱心に楽しそうに話し合っていました。児童生徒のことを考えながら授業を構想する楽しさがあります。授業中には、児童生徒と共に語り合う楽しさ、十分に準備して児童生徒の発言を予想していても予想を超えるような発言に出会う楽しさもあると思います。ぜひ道徳科の授業を楽しんでいただきたいと思います。

今日はどの分科会でも道徳教育の目標、道徳科の目標を確認していました。「道徳性を養う」ことが目標であるということ、道徳科の授業で目指すべき学習は、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習」であるということ、道徳科では、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ということが示されています。「道徳性」については、研究者によってその捉え方は様々あるところです。そこで学校教育における道徳性は、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」で捉え、道徳性の諸様相と示しています。道徳性を構成する諸様相は、内面的資質と説明されており、行為としてあらわれている部分ではなく、心の中の部分ということになります。

内容項目を確認しますと、小・中学校ともに、AからDの視点で示され、整理されています。これまでは内容項目を1-(1)というように数字で表していましたが、より分かりやすくするためにそれぞれの内容項目を分かりやすい言葉で端的に示しています。また、いじめの問題への対応の充実を図り、第1・2学年に「個性の伸長」「公平、公正、社会正義」、第3・4学年に「相互理解、寛容」「公平、公正、社会正義」、第5・6学年に「よりよく生きる喜び」の内容項目が追加されています。さらに、発達の段階をより一層踏まえた体系的なものへと改善されています。

これまでの「道徳の時間」の授業については、読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始する指導、主題やねらいの設定が不十分な単なる生活体験の話合いの指導、望ましいと分かっていることを言わせたり書かせたりすることに終始する指導などが課題として指摘されていました。特別の教科となり、「考え、議論する道徳」への質的転換、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められています。「考え、議論する」とは、自分との関わりで捉え、多面的・多角的に考えることといえると思います。主体的な学びの視点からは、例えば、問題意識をもつ、自分自身との関わりで考える、自らを振り返るといったことなどが考えられます。「対話的な学び」の視点からは、協働し、対話する、多面的・多角的に考える、学級経営の充実を図るといったことなどが考えられます。これらの授業改善を図る視点を生かして、教師の明確な意図により深い学びへと向かっていくことが求められています。様々な状況、場面において、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を育てる学習が大切です。

このような授業を展開していくためには、教師がねらいや指導内容についての捉え方を明確にする、ねらいや指導内容に関連する児童生徒のこれまでの学習状況や実態、教師の願いを明確にすること、使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法を明確にすることなど、明確な指導の意図をもって授業を構想し、展開することが大切です。先ほどの基調提案の中で、「明確な指導観の確立」について述べられていました。また第3分科会では、内容項目「国際理解、国際貢献」を取り上げ、中心発問について検討していました。「ねらいとする道徳的価値について、教える教員の方に広い理解があると様々な子供た

ちのつぶやきを拾いつつ、ねらいがぶれずにうまく指導を進められるのではないか」という意見が述べられていました。第2分科会の資料には、「教材を熟読する」ことが挙げられ、また「学習指導要領解説をよく読む」ということも述べられていました。これによって「焦点化したい道徳的価値の意味を明確にしておくこと」、「内容項目の指導の観点から気付かせたい、考えさせたいポイントを把握すること」が大事だと説明されていました。そして教材の読み方とそれに伴う発問によって深い学びへとつなげていくということが議論されていました。

小林秀雄が語った言葉に「だけど、実際質問ってえのは、難しいことだね。本当にうまく質問するということは、もう答えがいらなくてことなんですよ、本当は。」(新潮カセット文庫『小林秀雄講演 信ずることと考えること』(講義・質疑応答)、1985年)というものがあります。この言葉と、問うことについては、『中等教育資料』令和元年10月号で、京都大学大学院の土井真一教授が紹介してくださっています。私たち教員は、何かを説明した後に、分からなければ質問するようにと児童生徒に話すことがよくあると思います。ただ、そう言われて質問できる生徒はあまり多くないのではないのでしょうか。分かっているのならともかく、分からないのになぜ質問しないのだろうと思うこともあります。しかし、この言葉に出会ってみると、なるほど、言われてみれば、分からないから質問できないということがほとんどなのかもしれません。質問というのは、分からない人が分かっている人に行う行為と考えられているかもしれませんが、分からないから質問できない、問えないということの方が圧倒的に多いのかもしれません。私たち教員は、よく答えを求めがちです。しかし、本当は「適切に問うということ」、「問いの意義を理解すること」、ここにこだわる必要があるのかもしれません。問うためには、幼い子供のように、「どうして?」と純粋に素朴な疑問を持つことも大切です。しかし、適切に問うためには、「見方・考え方を身に付ける」ということが大事になるのではないのでしょうか。土井先生は、「学ぶ者の思考する力を鍛えるのは、良き答えではなく、良き問いなのです」と述べています。良き問いと出会うことによって、それまで考えたことのなかったような思考の地平が開かれたり、その問いと格闘することによって広い視野から深い洞察を得たりということがあるのではないかと思います。私たち教員は、児童生徒に対して適切な問いを適切に示すということが求められていると考えられます。あらためて、小林秀雄の言葉を見てみると「本当にうまく質問するということは、もう答えがいらなくてことなんですよ、本当は」とあり、「答えが分かっているということなんですよ」とは言っています。そして、「この人間の分際でだね、人間の分際でこの人生に向かって、この難しい人生に向かって、解決を与えるなんてえことは、おそらくできないですね。ただ、正しく訊くということはできますね。」と続けています。正義とは何か。幸せとは何か。よりよく生きるとは。友達に思いやりを示すというのはどういうことか。私たちは何のために生きているのか。これらの問いの意義を理解することができれば、本当に正しく問うということが理解できるということになると、もう答えがいらなくてことなのだということ、小林秀雄は語りかけているのかなと感じられます。世の中には正解を見付けるのではなくて、その時々に分かたりの答えを出しながら、生涯抱え続けていかなければならない問いというものもあるのではないのでしょうか。道徳教育の中で扱う問いというものには、そういったものも含まれているのではないかなとも感じます。「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、「問う」ということを真剣に考える必要があると、あらためて感じました。

深い学びにつながる指導方法の例示として、例えば、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」、「問題解決的な学習」、「道徳的行為に対する体験的な学習」などが挙げられています。第1分科会では、読み物教材の登場人物への自我関与を中心とする学習についての発問について検討していました。例えば、登場人物の行動の理由や根拠を問う、判断の理由を問う、自分だったら主人公のように考えたり行動したりできるだろうか、といったような発問が検討されていました。道徳科における質の高い多様な指導方法、具体的な学習プロセスは無限にあると考えます。先程示したのも例に過ぎず、それぞれが独立した指導の型ではありません。組み合わせることも考えられますし、それ以外の指導方法も様々あります。学習指導要領を踏まえ、ぜひ自由にいろいろ検討していただければと思います。学習指導過程や指導方法の工夫の配慮事項として確認しておきたいことは、指導のねらいに即して適切に取り入

れるということです。道徳科の授業で考えるべきことは道徳的価値の意義についてということはおさえておいていただきたいと思います。

令和3年度道徳教育実施状況調査結果から、道徳の特別の教科化による変化を見ると「道徳教育に対する教師の意識が高まった。」「学校として育てようとする児童生徒像をより意識して指導するようになった。」「授業時数を十分に確保して指導することができるようになった。」「他教科に比べ、道徳の授業が軽視されるような風潮がなくなった。」については、非常に高い肯定的な回答がありました。また、教育委員会を対象にした同様の質問項目でも、多くの項目で8割を超える前向きな変化が認識されていました。

その上で、道徳教育のさらなる充実のために課題を聞いたところ、「教師の指導力」が高い割合で回答されました。教師の指導力については「ゴールはなく、常に検証を通じて向上を図る必要がある」という記述も見られました。校内研修で重点を置いていることを聞いたところ「道徳科の指導」に最も重点が置かれていました。こうしたことを踏まえると、課題として挙げられていることは、必ずしも教科化が目指す指導ができていないということではなく、道徳教育に対する教師や学校の意識の高まりが表れているとともに、よりよい授業に向けたさらなる授業改善のため、指導力向上に向けた取組が模索されていると考えられます。

なお、学校対象の設問をご覧いただくと、「教科書があることで適切な教材の選択や作成等にかかる負担が減った。」という受け止めが非常に高い割合である一方、「教科書や教科書会社発行の指導書に頼る傾向が見受けられるようになった。」という回答も多く見られました。教科書に掲載された題材を扱う順番や時数の配当をどう工夫するのか、教科書と併せてどのような補助教材を活用するのか、児童生徒の実態に即し、道徳性を養うという観点から、教科書を含めた教材をどう活用して指導していくのかという点を意識して、今後とも授業改善を図っていただくよう努めていただければと思います。

## 5 評価について

道徳教育に関わる評価等の在り方については、改訂後の学習指導要領において、「児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」と示されました。これを受け、具体的な方法を専門家会議で検討し、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと、学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか、といった点を重視することなど、基本的な方向性が示されました。

道徳科における評価の基本的な考え方は、「観点別評価を通じて見取ろうとすることは、児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目標とする道徳科の評価としては妥当ではないこと」、「目標に掲げる学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を見取ること」、「個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること」や、「児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行うこと」、「内容項目について単に知識として観念的に理解させるだけの指導や、特定の考え方に無批判に従わせるような指導であってはならないこと」、「道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握すること」、「道徳科の目標に明記された学習活動に注目して評価を行うこと」と示されました。

個人内評価として、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子をどのように見取り、記述するかということについては、学校の実態や児童生徒の実態に応じて、教師の明確な意図の下、学習指導過程や指導方法の工夫と併せて適切に考える必要があります。児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかという点については、例として「道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。」などの視点を、発言や感想文、質問

紙の記述等から見取るという方法が考えられます。また、児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかという点については、例えば「現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している」などの視点も考えられます。

各分科会でも触れられていましたが、発言が多くない児童生徒や考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒には、ICT端末の効果的な活用をはじめ、様々な指導方法の工夫を通して、発言や記述ではない形で表出する児童生徒の姿に着目するという点も重要です。また、年間や学期を通じて児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取ることが大切です。このように、年間や学期を通して児童生徒を見取るためには、指導する教師一人一人が学校の状況や児童生徒一人一人の状況を踏まえた評価を工夫することが求められます。

評価の具体的な工夫としては、例えば「児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したものや児童生徒が道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを累積したものを評価に活用する。」「作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程を通じて児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する。」などがありますが、記録物や実演自体を評価するものではなく、学習過程を通じて児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取るものであるということに留意することが大切です。

なお、こういった評価を行うためには、校長及び道徳教育推進教師のリーダーシップの下に学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。このような組織的・計画的な評価の推進が、道徳科の評価の妥当性、信頼性等の担保につながるとともに、教師が道徳科の評価に対して自信をもって取り組み、負担感を軽減することにもつながるものと考えられます。

冒頭で、令和3年の答申に触れ、学習指導要領の着実な実施とICTの活用が求められているということをお話しました。道徳科の特質を踏まえたICTの効果的な活用について一緒に考えたいと思います。道徳科では、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供たちが自分自身の問題と捉え、向き合う、「考え、議論する道徳」への転換により、道徳性の諸様相を育てることが求められています。指導に当たっては、この道徳科の目標に示されている学習に着目し、より効果的に行われるようにするための手段として、指導方法の工夫、ICTの効果的な活用を図り、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る必要があります。

例えば、小学校第3学年の道徳科で、主題名「正しいことは自信をもって」、内容項目はAの「善悪の判断、自律、自由と責任」、授業のねらいは、「正しいと判断したことは、自信をもって行おうとする心情を育てる」という授業におけるICT端末の効果的な活用としては、展開の場面で、児童が自分の気持ちや考えをICT端末で示し、友達の考えを知って話し合うことで、道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを理解できるようにすることなどが考えられます。ICT活用のメリットとしては、共有された友達の考えを視覚的に捉えることができ、自分の考えと同じ友達や違う友達を見つけることが容易にできるなどがあります。

また、例えば、小学校第5学年の道徳科で主題名「誠実な生き方」、内容項目はAの「正直、誠実」、授業のねらいは、「常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる」という授業におけるICT端末の効果的な活用としては、ICT端末にある学習支援ソフトを使って、端末で一人一人の児童が、ねらいとする道徳的価値である「誠実」について考えをまとめ、友達のまとめた考えを見ながら自分のよさや課題を見つけることができるようにすること、また、教師は、全児童の考えを把握し、意図的指名に生かすことなどが考えられます。このようにICT端末にある学習支援ソフトを活用するメリットを生み出すためには、教師が一人一人の児童がじっくりと本時の授業を振り返りながら、ICT端末に打ち込んだ考えについて共有したり、意図的に共有しなかったりする工夫や、なかなか考えがまとまらない児童への対応として、一定時間を見計らって全児童の考えを共有する工夫、教師は、全児童の内容をICT端末で確認しながら、個別に対応するなどの工夫が考えられます。このような工夫を行うことにより、ICT端末を活用する利点と

して、児童は、共有された友達の考えを知ることができ、自分の考えと比較して、さらに自分の考えを深めることができます。また、教師は、全児童の考えをその場にながらICT端末で把握することができ、意図的に指名をして、特定の児童の考えを他の児童に紹介することができます。道徳科では、子供たちの学習状況について大きくりなまとまりを踏まえた評価が求められています。年間や学期という一定の期間を経て評価するためにICTを活用することが、子供たちが自己を深く見つめることや教師の負担軽減にもつながると考えます。例えば、毎時間の授業記録を端末に保存しておくことで、子供が学びを振り返り、成長の様子を実感することにつながったり、教師が子供の学びを見取り、評価に生かすことができたりします。特に学校で重点とする内容項目は、年間の中で複数回扱うことがあり得ます。例えば、一学期と冬休み明けに同じ内容項目を扱う場合、端末に入力したものを児童生徒自身が振り返り、自分の成長を実感することにつながる考えられます。中学校では、3年間22の内容項目を毎年扱いますから、年を越えて振り返ることも紙に比べて容易になります。

最後に、道徳科の授業では、道徳教育と道徳科のつながりを大切にしていきたいと思います。道徳科以外の教育活動で、道徳的価値についてどのような学習をしているのか、様々な教育活動における指導で、ねらいとする道徳的価値について指導できたことは何か、また、課題となっていることは何かを意識して、課題が残っていることを道徳教育の要となる道徳科で指導につなげると、何について考えさせ、何に気付かせたいのか明確になっていきます。補充、深化、発展、統合といった道徳教育の要としての道徳科ということ意識していただきたく思います。教師にとっては、指導方法の工夫は一つの楽しみであり、醍醐味でもあるが、それは、あくまでも手段であり、目的ではないということも再認識していただきたいです。先生方には、ぜひ、自信をもって道徳教育に取り組んでいただき、道徳科の授業を楽しんでいただきたく思います。そのために、学習指導要領に示されている道徳科のねらいを踏まえ、道徳科の授業で児童生徒に何について考えさせ、何に気付かせたいのか、道徳教育との関連で明確にしていいただければと思います。

## 6 終わりに

道徳の授業が楽しいという声が、先生方の中に今以上にあふれることを願っています。国としては「道徳教育アーカイブ」の充実、発展を今年度も進めて参ります。また、NITS オンライン講座についても、道徳教育に係る複数の動画があります。適宜、ご覧いただきますようお願いいたします。

今日は分科会、基調提案などで、先生方の熱心に取り組まれている姿を拝見し、私自身大変学びの多い時間を過ごさせていただきました。共に考え、議論し続けていくこと、そういう姿勢を私たち教員、大人が示していくということが、ますます求められていると考えています。私自身もその姿勢を大切に参ります。

愛媛県の道徳教育のますますの発展を願っております。今日のご清聴いただきどうもありがとうございました。

### Ⅲ 研究大会報告

## 第57回全日本中学校道徳教育研究大会（北海道函館大会）

伊予市立港南中学校 重松 直綾

### 1 大会日程、会場

- ◇ 第1日 令和5年11月1日（水）函館市立亀田中学校  
公開授業 授業研究分科会 課題別分科会
- ◇ 第2日 令和5年11月2日（木）函館市民会館  
基調提案 指導講話

### 2 大会主題

- 主体的に学び合う児童生徒の育成  
－ Well-being の実現を目指した道徳教育の推進 －

### 3 大会の概要

#### (1) 会場校の研究の概要

##### ア ローテーション道徳の実施

###### (ア) 会場校が提示したメリット

- ・ 同じ教材で授業を行うことにより、教材に慣れ、指導力の向上につながる。
- ・ 生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をより多くの教師により、多面的・多角的に把握できる。
- ・ 教師が自分の得意分野に結び付けた授業を展開することができる。

###### (イ) 会場校における取組上の留意点

- ・ 学年で同じ時間に道徳科の授業を行うのではなく、あえてずらすことにより、教員が互いの授業を参観し合い、意見交換をすることができる。
- ・ 評価につなげるために、スプレッドシートを使った「振り返りシート」を用いることで、生徒の授業後の感想や授業の様子を残していく。

##### イ ICT 機器の活用

###### (ア) 教育用掲示板アプリの活用

- ・ 教育用掲示板アプリ「Padled」を使って意見の共有を図る。

###### (イ) テキストマイニングの活用

- ・ グーグルフォームでアンケートを実施し、その結果をテキストマイニングで出力することで、学級全体の考えを可視化する。小さい文字で表されている意見に注目することで、多面的・多角的に捉えることができるようにする。

#### (2) 課題別分科会

##### ア 東京都大田区立南六郷中学校「運動会に関連付けた道徳教育充実の取組」

###### (ア) 学校行事と学年の重点目標とを関連付ける

- ・ 学年集団で話し合って学年目標を定める。（「認め合い、支え合い、高め合い」）
- ・ 運動会指導の場面で、教師が学年重点目標の大切さを訴える。

- ・ 学年通信を用いて、家庭にも学年目標の大切さを訴えて、協力を仰ぐ。
- ・ 学年目標を呼び掛けるポスターを掲示して、生徒に意識付けを行う。
- ・ 「良いところ発見カード」を掲示することで、重点目標を意識付けする。

(イ) 行事の指導を終えて道徳科の授業を実践する

- ・ 友情の在り方を考える教材「ライバル」を用いた授業を実践する。
- ・ 学校行事で体験したことを、道徳科の授業で「補充・深化・統合」させる。

(ウ) 指導助言より

- ・ 平成20年発行の解説書には、「生活経験主義が特別活動」「内容計画主義が道徳」とあり、安易な統合は否定していた。しかし、現在の解説書には、特別活動との連携を重視するよう明記されている。
- ・ 特別活動の解説書には「集団活動によって、道徳性を身に付ける」とある。ただし、道徳性を身に付ける目的が、道徳科と特別活動では異なる。

イ 香川大学教育学部附属坂出中学校「支持的風土を醸成する朝道徳の取り組みと自己と集団の関わりを考える生徒会活動を中心に」

(ア) 道徳教育の充実を促す指導体制

- ・ 管理職の指導の下、道徳教育推進教師を中心に道徳プロジェクトを構成する。三つのプロジェクトチーム「教材プロジェクト」「連携プロジェクト」「環境プロジェクト」を組織する。
- ・ 「教材プロジェクト」の取組
  - ① 「考え議論する」道徳の授業づくり
  - ② ローテーション道徳の実践
  - ③ 成長のよさを実感させる評価
- ・ 「連携プロジェクト」の取組
  - ① 道徳通信の発行
  - ② ボランティア活動を通じた心の醸成
  - ③ 地域人材を生かした一斉道徳
- ・ 「環境プロジェクト」の取組
  - ① 朝の時間を使った朝道徳の運営
  - ② 心に訴え、考えさせる掲示の充実
- ・ 各プロジェクトチームのチーフと道徳教育推進教師が毎週木曜日に集まり、情報共有を実施する。

(イ) 家庭・地域との連携・協力

- ・ 学校から各家庭や地域に学校通信が広がっていくシステムを構築する。
- ・ 道徳通信の中に保護者からの通信欄を設けて、意見が学校に届くようにする。
- ・ ボランティア担当教員と連携し、活動の様子を道徳通信や学校掲示に掲載する。

(ウ) 朝道徳「こころ」の実践～学校内における道徳に関する支持的風土づくり～

- ・ 毎週水曜日の朝学活の時間に10分間朝道徳を実施する。
- ・ 週ごとに担当教員を決めておき、月曜日までに全教員に資料を配付する。その中に、指導のポイントや手順をまとめた朱書きも添える。資料の作成は、管理職を含めた全教職員がローテーションで行う。
- ・ 全学年同じ教材で実施し、校内に朝道徳のコーナーを設けることで、考えの違いや思いの違いの良さを感じさせる。
- ・ 課題は、内容項目に偏りが出してしまうことが挙げられ、改善の余地がある。

- (エ) 各教科の授業や特別活動に見える道徳性の育成
- ・ 各教科の指導の中に道徳性の称賛を含むように心掛ける。
  - ・ 自己と集団の関わりを考える生徒会活動を充実させる。

(オ) 指導助言より

- ・ 扇の要として、道徳科を実践していく。
- ・ 道徳性の向上を別様にしっかり示しておく。
- ・ 四つの対話を大切にして、道徳教育を実践していく。「教材との対話」「教師との対話」「友だちとの対話」「自分自身との対話」

(3) 指導講話

「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の推進・充実」

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 堀田 竜次 様

ア 特別な教科道徳が目指す資質能力(目的)

- ・ よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。
- ・ 「考え、議論する道徳」「主体的・対話的で深い学び」は、あくまでも目的への手段で、目的となつてはいけない。
- ・ 個別最適な学びとは、自己調整を図りながら、学習方法を選択することができるようにすること。
- ・ 道徳科の授業の時間は、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間。

イ 道徳教育で養っていく「道徳性」とは。(道徳性は、本来切り分けることはできないが…)

(ア) 道徳的判断力

それぞれの場面で善悪を判断する能力

(イ) 道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

(ウ) 道徳的実践意欲

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意思の働き

(エ) 道徳的態度

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

ウ 道徳教育で養いたい道徳的諸価値についての三つの理解とは

(ア) 価値理解

人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

(イ) 人間理解

道徳的価値は大切であっても、なかなか実現することができない人間の弱さなども理解する

(ウ) 他者理解

道徳的価値を実現したり、実現できなかつたりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること

※ この三つの理解を「自分との関わりで捉える」ことで、自己理解につなげる。



自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、考えを深める。

エ 多面的・多角的に考えるとは

「多面的」とは、学習対象が様々な面を持っていることを、「多角的」とは、学習対象を様々な角度から考察し、理解すること意味している。

[生徒自らが、物事を多面的・多角的に理解し、学習に取り組むために]

- ・ 多様な感じ方や考え方に接する
- ・ 多様な価値観の存在を前提に考える
- ・ 他者と対話したり協働したりしながら考える

人間としての生き方について  
の考えを深める

オ 年間指導計画を作成するに当たって

- ・ 特別の教科道徳の年間時数 35 時間の内、22 の内容項目が全て含まれているかチェックを。  
 $35(\text{時間}) - 22(\text{項目}) = 13(\text{時間})$ となり、



13時間を自校の重点内容項目に充当することができているか？

- ・ 全教職員が、重点内容項目(学年別の重点内容項目)を理解できているか？
- ・ 重点内容項目が、学校が育てたい生徒の姿である。

(例)

【D 生命尊重】を重点内容項目として

35時間の内、4時間取り上げたいのだが、教科書に四つの教材が無い場合、地域教材や自作教材を用いることを考える。

※ 年間指導計画を恣意的に変更してはいけない。

(年間指導計画を作成するときに、考慮することが必要)

カ 特別の教科道徳の授業実践に当たって

- ・ 「主題名」「ねらい」「主発問」に一貫性があるかを考慮しておく。(特に研究授業では)
- ・ 解説書を読んで、内容項目について教員が理解しておくことが大切。  
(例えば、小学校で行うべき内容項目を中学校で行っていないか)
- ・ 長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導を繰り返すことで、生徒の道徳的实践へとつながっていく。
- ・ モニターを使うことは良いが、画面が切り替わることで、全てが流れていってしまう。そのため、アナログ媒体を有効な形で活用することが大切である。

キ 様々な学校での取組の紹介

- ・ 学校の会議室等に各学年・各学級の授業の様子を掲示する。  
(全ての先生方が授業を共有することができる)  
(発達段階の様子を知ることができる)
- ・ 道徳コーナーがよくあるが、それぞれの授業の板書を掲示するだけでも効果が十分期待できる。

IV 支部だより

四 国 中 央 支 部

1 研究主題(小・中共通)

生きる力の基盤となる豊かな心を育む道德教育の研究 - 道德の時間を要として -

2 研究のあゆみ

(1) 道德主任会(4月)

- ア 役員選出、研究主題の設定、研究計画の立案
- イ 情報交換

(2) 市内小中学校教科等研究会(9月)

3 研究の内容

(1) 研究授業 9月21日(木) 授業者 第1学年 金生第一小学校 教諭 三宅 まどか

- ア 主題名 みんなのために はたらく【C 勤労、公共の精神】
- イ 教材名 ぼくのしごと(「新しいどうとくI」東京書籍)
- ウ ねらい 自分に仕事を任されて喜ぶ「ぼく」の気持ちを考えるを通して、働くことのよさを知り、集団の一員としてみんなのために進んで働こうとする意欲を育てる。
- エ 準備物 挿絵、センテンスカード、ワークシート、クロームブック(やる気度メーター)、大型提示装置、アンケート結果、写真、動画

オ 展 開

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点(○)と評価(◎)
1 主題に関わる問題意識を持つ。		○ アンケート結果や写真を提示し、みんなのために働いていることについて想起させることで、ねらいとする道德的価値についての問題意識を持たせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     みんなのために はたらくことの よさってなんだろう。                 </div>		
2 教材を聞いて、話し合う。  (1) お母さんにお風呂掃除をやってみようと誘われたときの「ぼく」の気持ち  (2) 「おふろそうじのプロ」になれたと思ったときの「ぼく」の気持ち	○ お母さんに「おふろそうじ、いっしょにやってみようか。」と言われて、どきとした「ぼく」は、どんなことを思ったでしょう。 ・どうしよう。 ・できるかなあ。 ・どうやってするのかなあ。 ・やってみたいな。  ○ 「おふろそうじのプロになったかな。」と思った「ぼく」は、どんな気持ちでしょう。 ・ぴかぴかになって気持ちがいいな。 ・だんだん楽しくなってきたよ。 ・一人でも上手にできるようになってうれしいな。 ・お風呂掃除は、ぼくに任せて。 ・みんなの役に立ちたいな。	○ 登場人物の心の動きに意識が向くよう、読み聞かせの前にあらすじと考える視点を伝える。  ○ 場面や状況を捉えやすくするために、挿絵を用いて読み聞かせを行う。  ○ 初めてチャレンジするときの自分の気持ちを思い起こさせる。  ○ やる気度メーターで「ぼく」のやる気度を可視化し、不安な気持ちと前向きな気持ちが入り混じっている「ぼく」の気持ちに共感させる。  ○ 手伝いから自分の仕事だと「ぼく」の意識が変化していったことや、働くことのよさを捉えられるよう挿絵やセンテンスカードで視覚化する。  ○ 「ぼく」のやる気度を、働く前と比べさせることで、働くことに対する「ぼく」の気持ちの変化を捉えさせる。

<p>(3) 「やったあ。」と喜んだときの「ぼく」の気持ち</p> <p>3 学習や自分の生活を振り返り、まとめる。</p> <p>4 ゲストティーチャーの話聞く。</p>	<p>◎ 「やったあ。」と喜んだ「ぼく」は、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喜んでもらえてうれしいな。</li> <li>・頑張り続けて良かった。</li> <li>・ぼくの仕事になってうれしいな。</li> <li>・ぼくの仕事になったから、これからも頑張るぞ。</li> </ul> <p>○ 今日の学習や自分の生活を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板をきれいにしたら、「ぴかぴかて気持ちがいいね。」と言われて、うれしかった。</li> <li>・草引きを頑張ったら、学校がきれいになって気持ちよかった。</li> <li>・洗濯物をたたんだときに、「ありがとう。助かるよ。」と言われた。これからも続けたいな。</li> </ul>	<p>○ 働くことに対して自分の考えを広げ、多面的に価値に触れられるよう、補助発問や切り返しをする。</p> <p>○ ワークシートを活用し、家族の一員として自分に仕事を任されて喜ぶ「ぼく」の気持ちを考えさせ、ねらいとする価値に迫れるようにする。</p> <p>○ 学習を通して深めた働くことのよさを基に、自分の生活を振り返らせることで、みんなのために働こうとする意欲を高めたり、これからの生き方につながるヒントを見付けたりできるようにする。</p> <p>◎ 働くことのよさを知り、集団の一員としてみんなのために進んで働こうとする意欲が高まったか。(ワークシート、発言)</p> <p>○ 本校でボランティア活動に取り組まれている方の思いに触れ、みんなのために働くことに対する考えを深めさせる。</p>
--	--	--

## (2) 研究協議

- 導入のあらすじの押さえ方や教材を読むときの声の強弱など、児童が内容を理解して話合いに参加しやすいよう工夫されていた。
- 可視化の方法について、心情円、ハートメーター、心のものさしなどを小学校も中学校も使用している。色分けのカード提出で、賛成や反対などを表現させる方法などもある。そうすることで共有しやすくなる。
- 問い返しにより、児童の思考がぐっと深まった。
- 本物と出合わせることが大事であり、最後のゲストティーチャーの登場は効果的だった。

## (3) 指導助言

- 「心の内面を可視化する」とは、心情円などで児童生徒個々の考えを見えるように示させるだけでなく、児童生徒が言葉、表情、行動で表現する姿を通して児童生徒の心の内面を見取ることである。表現にはつぶやきや表情など意図しない表現も含まれる。そのために、児童生徒が言葉、表情などで表現する活動を指導過程に組み込む。そして、児童生徒の表情やつぶやきも観察することが大事である。
- 教師による教材の読みを範読から判読へと高めていく。教師は教材を何度も読み、教材の中に仕掛けられた道徳的価値に迫るためのキーワード、キーセンテンスを捉えておく。
- 教師は発問を精選し、言葉を吟味し、何を問うのか、発問の意図をはっきりさせる。心情を問うのか、行為を問うのか、児童生徒自身を問うのか、それとも道徳的価値を問うのか、教材そのものを問うのか、教師は明確に意識して発問することが大切である。また、問い返しは、立場を入れ替えて考える、比較して考えるなどの方法で、より価値に迫っていけるようにしていくことが大切である。

## 4 研究の成果と課題

- 児童生徒は授業で初めての教材に出会う。あらすじや出来事、考える視点を前もって話しておいてから登場人物の心の動きが判るように判読すると、内容の理解にもつながり、じっくり考えさせる時間を確保する上でも効果的であることが分かった。
- 心の内面を可視化する手立てとして、思考ツール、板書、ワークシート、表現活動などを工夫することが大切であると学んだ。教材や実態に合わせて効果的な手立てを活用し、児童生徒の言葉や表情、つぶやきなどから心の内面を見取っていきたい。

## 新居浜支部

### 1 研究主題

よりよい生き方を目指して、自己を見つめ、考えることができる心豊かな生徒の育成

ー 豊かな心情を育て、道德教育の充実につながる指導の工夫 ー

### 2 研究の歩み

- (1) 第1回道徳主任会(4月19日)
- (2) 学力向上研修会(6月26日)
- (3) 新居浜市人権・同和教育研究大会(11月30日)

### 3 研究の内容

#### (1) 授業実践(第3学年)新居浜市立東中学校

ア 主題名 気高い生き方【D よりよく生きる喜び】

イ 教材名 カーテンの向こう(「中学道徳3 とびだそう未来へ」教育出版)

ウ ねらい 「私」の気持ちの変化について考えるを通して、人間の弱さや醜さに気付き、それらを克服して誇りある生き方をしようとする心情を育てる。

エ 展開

学習活動 【時間・形態】	○主な発問 ◎中心発問 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ◇評価
1 自分の経験を振り返る。 【5分・一斉】	○ これまでに、うそをついた経験はあるだろうか。 ・母に怒られたときにうそでごまかした。 ・宿題が終わっているふりをした。	○ 誰もがうそをついた経験があることを押さえる。
誇りある生き方とは何かを考えよう。		
2 教材を読み、「私」の気持ちの変化について考える。 (1) 初めの「私」の気持ちを考える。 【5分・一斉】	○ 初め、「私」はヤコブの話をつどんな気持ちで聞いていたのだろうか。 ・気持ちが明るくなってくる。 ・外が見られてうらやましい。 ・自分ものぞいてみたい。	○ 教材の前半部分を範読する。
(2) 中盤の「私」の気持ちを考える。 【5分・一斉】	○ 「私」は、次第にどんな気持ちになっただろうか。 ・死ねばいいのに。 ・憎らしい。	○ 「私」の気持ちが変わっていく様子に注目させる。
(3) 終末の「私」の気持ちを考える。 【5分・一斉】	○ 冷たいレンガの壁を見たとき、「私」はどんな気持ちになっただろうか。 ・ヤコブに申し訳ない。 ・ヤコブはすごい。 ・がっかりした。	○ 教材の後半部分を範読する。
(4) 「私」を自分に置き換えて、物語のその後を考える。 【20分・個人→班→一斉】	◎ もし、あなたがカーテンの向こうの真実を知った「私」だったら、この後、どのような行動をとるだろうか。 ① ヤコブの後を継ぐ ・真実を知ったら、ショックを受けるから。	○ 私を自分に置き換えて、どのような行動をとるか、①、②から選ばせ、その理由を考えさせる。

<p>3 これからの自分について考える。 【10分・個人→一斉】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなを元気付けることができるから。</li> <li>② 事実をみんなに伝える。</li> <li>・ヤコブの後を継いだら、みんなに嫌われるかもしれないから。</li> <li>・ヤコブのすごさを伝えたいから。</li> </ul> <p>○ 今日の学習を通して、これからの自分はどうありたいかについて考えよう。</p>	<p>◇ 「私」の気持ちの変化から、自分自身を振り返り、考えることができたか。</p>
--	---	---

**(2) 研究協議**

**ア 協議**

- 「私」の弱さや醜さに気付かせたかったため、感想を書く前に教師の説話をを行った。感想で「私」の心の弱さや醜さについて書いていた生徒が何人かいたが、授業中の発表では述べられなかった。
- 教材の後半をプリントで配らずに、教師が音読したことにより、生徒たちが引き込まれるように前のめりで聞いていたのが良かった。
- ねらいで「人間の弱さや醜さを克服する強さ」について挙げているが、生徒の感じ方としては、「自分の醜さを見つめる」という表現より「自分の弱さを見つめる」という表現の方が生徒に伝わりやすい。
- 「私」を自分に置き換えて、物語のその後を考える発問で、二つの選択肢から選択をした後に、この二つに共通することを生徒に考えさせることで、「自分を守る弱さ」「弱さに負けずに他者のことを考える」というねらいに迫ることができた。



資料1 授業の様子

**イ 指導助言**

本授業では、「私」を自分に置き換えて物語のその後を考えることを中心発問にしていたが、その前の発問である「カーテンの向こうを見たときの私の気持ちを深く掘り下げること」を中心発問にするのも良い。その理由は二つある。一つ目は、ここを教師が意識することで、様々な人間の弱さや醜さについて多角的・多面的な考えを引き出すことができるからである。人間は誰も弱いところが絶対にある。このことを肯定的に捉え、共感させる場を十分にとることで、自然に自分のこれまでの生き方を振り返り、今後の自分を考えることができるようになる。二つ目は、ここを深く考えることによって、ねらいに沿った授業になるからである。

**4 研究の成果と今後の課題**

道徳教育は全ての教育活動で行う。一日の全ての時間で常に道徳をしていることを心掛けて、学級経営を行っている。本時でも、受容的な返しや個性を認めた返しなど、生徒への声掛けを意識することができた。生徒に寄り添い、かつ、研修で学んだことを道徳科の授業に生かし、より良い授業を行うことができた。また、AIの発達が目覚ましい世の中である。AIができなくて人間ができることについて、「人間は感性を豊かに働かせながら、どのように人生や社会をより良くするかを考えることができる唯一の存在だ」と言われている。本時のねらいにある「誇りある生き方」について、より考えを深める授業を行うために、人間の可能性についてのエピソードに対して、教師がアンテナを高く張り、生徒とエピソードを共有していきたい。

## 西条支部

### 1 研究主題(小・中共通)

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の育成

ー 学びがいのある道徳科の授業を要として ー

### 2 研究の歩み

- (1) 第1回 教科研修会(4月26日)※授業者等、協議事項決定済のため不招集
- (2) 第2回 教科研修会(8月10日)※警報のため、9月14日に指導案審議を実施
- (3) 第3回 教科研修会(10月19日)

### 3 研究の内容

(1) 授業実践(第5学年)西条市立飯岡小学校 曾我部こころ

ア 主題名 自分に誠実に【A 正直、誠実】

イ 教材名 見えた答案(「新しい道徳5」東京書籍)

ウ ねらい 自分自身に誠実に生きようとする心情を育てる。

エ 展開

活動内容	○ 主な発問 ◎ 中心発問 ・ 予想される児童の発言	○ 指導上の留意点 ◎ 評価
1 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正直でいるとは、どういうことだろう。</li> <li>・嘘をつかないこと</li> <li>・素直に言うこと</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">正直でいることはどうして大切なのだろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材の内容項目に関する話から本時の学習に対して、児童の関心を高めるようにする。</li> </ul>
2 教材を読み、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ よし子の答案を見てしまったとき、花子はどんなことを考えていたのだろう。</li> <li>・これで解ける。</li> <li>・昨日は勉強ができなかったから仕方がない。</li> <li>◎ 返却された100点の答案を見たとき、嬉しい気持ちとみじめな気持ちはどれくらいだろう。</li> <li>・嬉しいけれど、みじめな気持ちもある。</li> <li>・100点だったけれど、友達の見ってしまったからみじめな気持ち。</li> <li>・自分の力でテストを解いていないからみじめな気持ち。</li> <li>○ 正直でいることはどうして大切なのか考えましょう。</li> <li>・自分のためにならないから、嘘をつかず正直でいることは大切だと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材の理解が深められるように花子の人物像についてまとめる。</li> <li>○ すっきりしない花子の気持ちについて心のものさしを用いて考え、自分に誠実な行動をしないことが惨めな気持ちにつながると思えることができるようにする。</li> <li>○ マグネットを黒板に貼り、全員の考えを可視化する。</li> <li>○ 個人で考えた後に全体で交流し、考えを広げられるようにする。</li> <li>○ グループでめあてについて話し合い、考えを深める。</li> </ul>

<p>3 これまでの自分を振り返り、自分の考えを持つ。</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘘をつき続けると周りの人から信頼されなくなるから、正直でいることは大切だと思った。</li> <li>○ 今日の授業やこれまでの自分を振り返って考えたことはありましたか。</li> <li>・今までに正直に言えないことがあってすっきりしないことがあった。これからは正直に言いたい。</li> <li>・忘れ物をしたとき、先生に正直に言ってすっきりした。これからもうそをついたりごまかしたりせず正直に行動したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前に児童にとってアンケート結果を提示し、自己を振り返られるようにする。</li> <li>◎ 自己を振り返り、正直でいることはどうして大切なのかを考えようとしている。</li> </ul>
--	--	--

## (2) 研究協議

### ア 協議

- 授業者のねらいとしていた「正直に生きることの大切さ」に児童は着地をすることができていた。
- 主発問を「なぜ、こんなことをしてはいけないのか」にし、「花子さんがもっとすっきりするためにはどうすればよかったのか」という展開にすれば、前向きな展望で授業展開できたのではないか。
- 花子の気持ちを考える今回の展開だと意見に偏りがでた。匿名の磁石にして自分ならどうかという展開だと、より様々な意見が児童から引き出せたのではないか。
- 心のものさしの場面で、気持ちが揺れている児童がいた。机間巡視の中でその意見を見つけ、取り上げることができれば、より児童の素直な考えを引き出すことができたのではないか。



資料1 グループでの話し合い

### イ 指導助言

今回の主題は、「正直・誠実」であった。正直と誠実は似ているようで意味が異なる。授業のめあては「正直でいることはどうして大切なのだろう」であったが、誠実さを児童に考えさせる授業展開になるとまた、ねらいや発問が大きく変わってくるのではないだろうか。

今後も、導入時に考えていたことと授業を振り返って自分の言葉でまとめたことを比較し、自分の考えの深まりを感じられるように鍛錬してほしい。

## 4 研究の成果と課題

これまで、児童が考え・議論するためにはどのような展開がよいのか模索しながら授業を行ってきた。今回の授業実践を行う中で、各校の道徳科の授業実践の様子を共有することができ、日々の実践に生かせる学びを多く得ることができた。今後も、授業実践や情報交換を継続し、児童一人一人が考え・議論できるよう授業改善に努めたい。

1 研究主題 考え、議論するための授業構成の研究  
 ー ICTを活用した、多面的・多角的な意見を伝え合う場の工夫 ー

2 研究のあゆみ

(1) 道徳主任会

- 講義、指導案審議 (R4年8月6日)
- 出前講座「今、求められる道徳教育の具体的な展開」(R5年8月8日、11月22日)

(2) 道徳研究部会

- 令和4年度今治市・上島町教科等研究大会 (R4年11月22日)の指導案審議、授業研究  
 愛媛大学との連携(愛媛大学教育学部特任教授 遠藤 敏郎 先生)

3 研究の内容

(1) 小学校部会での授業実践 今治市立桜井小学校 第6学年 菅 祐輔 教諭

- ア 主題名 自分が目指すところまで【A 希望と勇気、努力と強い意志】
- イ 教材名 心をつなぐ音色～ピアニスト 辻井伸行(「新しい道徳6」東京書籍)
- ウ ねらい くじけずに物事をやり抜き、夢を実現した人の生き方に触れるを通して、目標を立て、希望や夢に向かって、諦めずに前向きに努力しようとする心情を育てる。

エ 展開

学習活動	主な発問(◎中心発問 ○基本発問)・予想される児童の反応	○ 指導上の留意点 ◇ 評価の視点
1 辻井さんについて知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 演奏している姿を見て、どんなことを感じましたか。                      ・とてもピアノが上手い。・迫力が伝わってくる。                      ・体全体で表現しているようだ。</li> <li>○ この人について、何か知っていることはありますか。                      ・辻井伸行さん。目が見えない。・有名なピアニスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音楽科の教科書の見開きページや実際に演奏する辻井さんの映像を見せることで、興味を持たせる。</li> <li>○ 感想や辻井さんについて知っていることを引き出し、辻井さんの紹介をする。</li> </ul>
辻井さんの生き方から、「なりたい自分」に近づくために大切なことを考えよう。		
2 「心をつなぐ音色」を讀んで話し合う。 (1) 印象に残った場面を発表する。 (2) 二次予選直前、諦めの言葉を先生から言われたときののぶ君の心情を考え、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材を読んで、どの場面が強く心に残りましたか。                      ・上手に弾くと、お母さんが喜んで聞いてくれるところ。                      ・ショッピングセンターで、みんなから拍手をもらった場面。                      ・「もうだめだね。」と先生に言われても、続けてがんばったところ。                      ・コンクールで落選しても、のぶ君だけは泣かなかった場面。                      ・一度落選したけど、3年後に優勝を果たしたところ。                      ・目が見えないけど練習をがんばりピアニストになったこと。</li> <li>◎ 先生に「もうだめだね。間に合わない…。」と言われたときの、のぶ君はどんな気持ちだったでしょう。                      ・悔しい。                      ・最後まで諦めたくない。                      ・せめて聞いてくれる人が喜んでくれる演奏をしよう。                      (自我関与させるための発問)</li> <li>○ もし、あなたがのぶ君だったら、どのように思いますか。                      【諦めない】(ピンク)                      ・決して諦めずに、最後まで努力したい。                      ・大好きなショパンの曲だから、諦めたくない。                      ・お客さんを喜ばせる演奏がしたい。後悔したくない。                      ・これ以上うまくならないと言われても、今までがんばってきたし、後悔したくない。                      【諦めてしまう】(青)                      ・こんなに練習してもだめなら、もうがんばれない。                      ・先生からそう言われたら、心が折れてしまう。                      ・諦めたくはない。でも、自信がない…。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 印象に残った場面を聞くことを予告し、範読する。</li> <li>○ 教材に線を引かせながら読ませることで、主体的に考えさせたい。</li> <li>○ 児童の意見を工夫して板書することで、教材のポイントに気付けるようになる。</li> <li>○ 母親やお客さんの喜びがのぶ君の喜びにつながっていることを押さえる。</li> <li>○ 悔しいという気持ちには、どんな思いが含まれているのか、問い返しをしながら広げていく。</li> <li>○ 諦めの言葉を掛けられたときの「のぶ君」の気持ちを、自分との関わりで考えさせる。</li> <li>○ 一人一人の考えを捉えるため、タブレット端末でロイノートを活用する。</li> <li>○ 自分の立場にあった色(2色)のテキストを選択して書かせることで、考えを可視化する。</li> <li>○ 小集団で対話させ、多面的・多角的な考えに触れられるようにする。</li> <li>○ 全体の場では、問い返しをしながら、児童の本心に迫るようにする。</li> <li>◇ 自分事として、「のぶ君」の気持ちについて考えている。(観察)</li> <li>○ のぶ君が泣かなかったという事実のみを押さえる。ここで、少し間を置くことで、その理由について個々に心の中で感じさせたい。</li> </ul>
(3) 落選してものぶ君が泣かなかったことを押さえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ のぶ君が落選し、支えてくれたみんなは大粒の涙を流しました。それでも、のぶ君だけは泣きませんでしたね。</li> </ul>	
3 辻井さんにまつわるエピソードを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 辻井さんにまつわるエピソードを紹介します。                      ・コンクール落選後にのぶ君が話した内容                      ・3年後に優勝を果たした際に涙を流したところ                      ・母(いつ子)さんの言葉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 辻井さんにまつわるエピソードを紹介することで、目標を持つことの大切さや前向きに努力することのすばらしさに気付かせ、道徳的価値を深めたい。</li> <li>○ 事前アンケートの結果を提示し、自分事として考えられるようにする。</li> <li>○ まだ「なりたい自分」が見付かっていない児童には、辻井さんの生き方から学んだことや感想を書かせるようにする。</li> </ul>
4 自己の生き方について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今日の学習を通して、感じたことや考えたことを書きましよう。                      ・辻井さんのように、諦めないで努力をしたい。                      ・困難があっても、自分を信じてがんばりたい。                      ・前向きに努力を積み重ねたい。                      ・強い思いを持って、最後までやり抜く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 高い目標に向かい、勇気や希望を持って努力することの大切さについて考えている。(ワークシート・発表)</li> </ul>

オ 研究協議

情報共有アプリで意見を出させるとき、付箋の色とメーターを使って工夫していたのが良かった。同じ「諦めない」を選んだ児童でもメーターに違いが出て多様な意見が出たため指名にも生かされていた。友達の見え方を見て自分の意見を変えてしまう児童もいるので、全員の意見が出るまで画面を隠すのは良い手段だった。

(2) 中学校部会での授業実践 今治市立北郷中学校 第2学年 大澤 洋介 教諭

ア 主題名 おおらかな気持ちで【B 相互理解、寛容】

イ 教材名 注文をまちがえる料理店(「新しい道徳2」東京書籍)

ウ ねらい

「注文をまちがえる料理店」での認知症のスタッフやお客さんとのエピソード、企画に携わる人の笑顔の背景を考えるを通して、相手を受け入れる寛容な心を理解し、それを身の回りや所属する集団の中に広げていこうとする道徳的実践意欲や態度を育てる。

エ 展開

学習活動	○ 主な発問・予想される生徒の反応	○ 指導上の留意点◇ 評価の視点
<p>1 学習への問題意識を持つ。</p> <p>(1) 自分の経験を振り返る。</p> <p>(2) 教材の内容を確認する。</p> <p>2 「注文をまちがえる料理店」について考える。</p> <p>(1) 認知症の方々の気持ちを考える。</p> <p>(2) 映像資料①を視聴する。</p> <p>(3) ロイノートを活用し、考えを深める。</p> <p>3 自分のこととして捉える。</p> <p>(1) 映像資料②を視聴する。</p> <p>(2) 自分との関わりについて考える。</p>	<p>○ 自分や友達が失敗したり、間違ったりした経験を思い出そう。 また、その時どんな気持ちだったか。 ・恥ずかしい。 ・どうしようと不安になる。</p> <p>○ 「注文をまちがえる料理店」とは、どのような人が働く店か。 ・認知症の人が接客するレストラン。</p> <p>○ 間違える可能性を料理店に組み込むことを提案したとき、泰子さん自身はどう思ったか。 ・間違えたくて間違えているのではない。 ・間違えることが悔しい。 ・悲しい。 ・つらい。 ・恥ずかしい。</p> <p>○ 映像から気付いたことは何か。 ・みんなが笑顔。 ・みんな楽しそう。 ・誰も文句を言っていない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">なぜ、スタッフやお客さんは笑顔なのだろう。</div> <p>《スタッフ》 ・間違いを受け入れてもらえるから ・引け目を感じることなく、堂々と働けるから</p> <p>《お客さん》 ・認知症の方が接客すると分かっているから ・頑張っている姿を見て感動しているから。</p> <p>○ 間違いを受け入れられると、互いにどんな良いことがあるか。 ・個性が尊重される。 ・人から信用される。 ・お互いに成長できる。</p> <p>○ その人のことが分かっていると受け入れられないのか。 ・一生懸命さが伝われば、受け入れられる。</p> <p>○ 今までの生活を振り返りながら、今日の学習で学んだことを書こう。 ・人の失敗を責めてしまうことがあったが、認められるようになりたい。 ・頑張っている人を支えられる人になりたい。 ・寛容な心を持ち、個性を理解すれば笑顔が増えると思った。</p>	<p>○ あらすじを押さえる。</p> <p>○ ミーティング中、少しはにかみながら、黙って話を聞いていた泰子さんの気持ちを考えるようにする。</p> <p>○ 認知症の方の気持ちを考え、わざと間違えるような設計はやめたことを押さえる。</p> <p>○ 実際のレストランの様子を視聴させることで、間違いや失敗が受け入れられている雰囲気を感じさせる。</p> <p>○ クラゲチャートを活用し、はじめの意見とおわりの意見の変容が読みとれるようにしておく。</p> <p>○ 認知症以外においても、分かっている(理解している)ことが寛容さにつながることに気付かせたい。</p> <p>○ 個人や社会全体の心のゆとりが必要なことにも気付かせたい。</p> <p>◇ 自分にできることは何かについて、「認め合う」「間違いを許す」等、具体的な態度や言葉で表現し、これからの生活に生かそうとしているか。(ポートフォリオ、発表)</p>

オ 研究協議

- クラゲチャートの活用は、視覚的に他者と意見共有しやすく、共有前後の個人の考え方の変容も見ることができた。
- 映像と発問の組み合わせがどうだったかという意見が出た。改善策として、社会のゆとりの方に持っていても良いのではという意見が出た。

4 成果と課題

令和4年度は、愛媛大学教育学部との連携により、「考え、議論する道徳」の授業の在り方を学び、資料の選定や効果について深く考察していく過程を通して、多面的・多角的に考える手立てとして有効に活用していく方向性を見いだすことができた。令和5年度は、出前講座により、ICTの効果的な活用について、様々な活用法を学ぶことができた。今後も、児童が多様な考えに触れたり、自分の考えを深めたりするのに活用する手段として活用方法を模索していきたい。

## 小学校部会

### 1 研究主題

学びの質を高める授業の創造 — 主体的・対話的で深い学びに向かう道徳科を目指して —

### 2 研究のあゆみ

(1) 第1回道徳主任会(4月25日)

役員選出、研究主題の設定、主任会運営と行事計画について

(2) 第2回道徳主任会(7月21日)

市教研の役員決め、情報交換(ICTの効果的な使い方、授業の終末や評価について)

(3) 第26回愛教研小・中学校道徳研究大会への参加(8月8日)

(4) 第34回松山市教育研究大会(3年次研修)への参加(11月10日)

(5) 第3回道徳主任会(2月1日)

研究会報告、本年度主任会運営の反省、次年度努力目標の審議

### 3 研究の内容

今年度、松山市立河野小学校で市教研大会が行われた。以下、その授業実践の取組をまとめた。

(1) 低学年部会

ア 教材名 みほちゃんと、となりのせきのますだくん【B 友情、信頼】

イ 成果と課題(成果…○ 課題…●)

- テキストマイニングにより、児童がどのような意識であるかを把握することができた。
- 役割演技により、登場人物の気持ちを自分のこととして考えることができていた。
- 小グループで話し合う「ちさの木」タイムを取り入れることで、多面的・多角的に捉え、考えを深めていた。
- 教師が問い返したり、共通点や相違点を意識させたりすると、よりよい深まりのある話し合いになる。

(2) 中学年部会

ア 教材名 プロレスごっこ【C 公正、公平、社会正義】

イ 成果と課題

- 教師の切り返し発問に対して、児童の反応がよかった。
- 綱引きチャートを活用することで、児童の考えを可視化でき、意図的指名に有効であった。「ちさの木」タイムを取り入れ、意見交換したことで、多面的・多角的に考え、公平に接することへの理解を深めることができた。
- 不公平がいじめにつながることを明確に押さえるとよい。
- チャートの結果が偏っていたので、「自分が傍観者だったら」と考えさせるとよい。

(3) 高学年部会

ア 教材名 ひきょうだよ【C 公正、公平、社会正義】

イ 成果と課題

- 「ぼく」の気持ちに焦点を当てて考えさせたことは、傍観者という立場、卑怯さに気付かせることにつながっていた。
- ロイロノートで共有することで、友達の意見を参照しながらスムーズに話し合うことができていた。
- 「ぼく」の意識について掘り下げたことは、社会正義の実現に向けてしっかりと考えることにつながっていた。
- 傍観者も実は加害者であることをしっかりと押さえるとよい。

## 中学校部会

### 1 研究主題

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の研究

- (1) 計画的、発展的で特色ある道徳教育の推進
- (2) 要となる道徳科の充実

### 2 研究のあゆみ

- (1) 第1回道徳主任会(5月2日)  
役員選出、本年度の努力目標の確認および研修計画の立案
- (2) 第2回道徳主任会(7月31日)  
市教研大会に向けての指導案審議(資料1)及び情報交換
- (3) 第26回愛教研小・中学校道徳研究大会への参加(8月8日)
- (4) 第34回松山市教育研究大会(3年次研修)への参加(11月15日)  
内宮中学校での3年次研修の運営、参加
- (5) 第3回道徳主任会(2月2日)  
各校の1年間の取組、本年度主任会運営の反省、来年度努力目標の検討



資料1 指導案審議の様子

### 3 研究の内容

松山市教育研究大会の3年次研修が、内宮中学校において、「学びの質を高める授業の創造～主体的、対話的で深い学びをもとに、よりよい生き方を探究する道徳科の授業を要として～」の研究主題のもと開催され、授業・研究協議への参加を通して研修を深めた。以下は、研究協議において、授業を振り返った際の意見や指導助言の一部をまとめている。

#### (1) 1年生の授業『ショートパンツ初体験 in アメリカ』

- ア 小集団や全体での話し合いは、生徒の多様な価値観を引き出すことに有効であったか  
発表前にペアで話す機会を設けたことは、話す機会を確保することにつながったので良かった。また、小集団の話し合いでは進め方シートがあったのでスムーズな話し合いになった。教師の笑顔や声掛けが話しやすい雰囲気を作っていた。
- イ 発問や問い返しは、ねらいについて考えを深める手立てとなったか  
教師の問い返しだけでなく、班の中での聞き返しや生徒の問い返しがあるともっと考えを深められたのではないかと。中心発問に時間をかけられるように、補助発問は1、2問にしぼるか、いきなり中心発問から始めるのも良い。
- ウ 教具や学習形態は、生徒の思考を深めることに効果的であったか  
ホワイトボードを使ったのは見やすくて良かったが、ロイロノートのシンキングツールの活用もできる。

#### (2) 3年生の授業『ハゲワシと少女』

- ア 発問や問い返しは、ねらいについて考えを深める手立てとなったか  
生徒から出てきた意見に対して、教師がファシリテーターとして問い返して揺さぶりをかけて、話し合いを徐々に深めていく方法が明確であった。命と写真のどちらが大事かという二項対立の議論の時間が長かったが、教師の問い返しによって、議論が深まった。
- イ 教具や学習形態は、生徒の思考を深めることに効果的であったか  
P4Cの手法を使って、授業が進められていた。円形に座ることによって、全員が表情を見ながら話し合ったり、発表し合ったりすることができて、話しやすい雰囲気ができていた。また、多くの生徒から自由に意見を出させることができており、意見の深まりがあった。道徳では、子どもたちがアクティブラーナー(自立した学習者)となって、積極的に授業に参加できることが大切である。子どもたちが中心となり、子どもたちにゆだねられた学習形態であった。

## 東 温 支 部

### 1 研究主題

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の研究

－ 学びがいのある道徳科の授業を要として －

### 2 研究のあゆみ

(1) 東温市春の教育研究集会(4月21日)

役員選出、研究主題の決定、研究計画の立案

(2) 東温市道徳委員会夏季研修会(8月8日)

第26回愛教研小・中学校道徳教育研究大会に参加

(3) 東温市道徳委員会研修会(10月24日)

「愛媛県特色ある道徳教育推進事業」推進校中間発表会(東温市立重信中学校)に参加

### 3 研究の内容

ここでは、「愛媛県特色ある道徳教育推進事業」推進校中間発表会における公開授業(中学校第1学年)を紹介する。

#### (1) 研究授業

ア 主題名 挑戦し続けること【A 希望と勇気、克己と強い意志】

イ 教材名 風を感じて-村上清加のチャレンジ(「新訂 新しい道徳I」東京書籍)

ウ ねらい 困難に直面しても、目標の達成に向けて前向きに挑戦し続ける村上清加選手の生き方について考えることを通して、目標に向けて強い意志をもち、前向きに努力していこうとする心情を育てる。

#### エ 展開

学習活動 【時間・形態】	主たる発問と予想される生徒の反応 (○主な発問 ◎主発問)	○ 指導上の留意点 ◇ 評価の視点
1 事前調査の結果を知る。 【5分・一斉】	○ までやろうと思ったけれどあきらめてできなかったことはないか。 ・テストの前、勉強の計画を立てていたが予定通りできなかった。 ・休み中に早起きしようと思っていたができなかった。	○ 事前調査の結果を場面図で提示し、本時の主題への関心を高める。
2 教材を読み、村上さんの生き方について考える。 【20分・一斉】	○ 大事故にあった村上さんはどんな気持ちだったのだろう。 ・これからどう生きていけばいいのか。 ・生きていくのがつらい。 ・今までの自分の、障がい者への見方(見下していたのではないか、無関心だった)に対する自己嫌悪。 ○ 「自分の周りがパーツとかがやいた」この時、村上さんはどんなことを考えたか。 ・頑張ってたかった。 ・自分を信じてよかった。	○ 主人公の様子を映した動画を用いることで教材への関心と理解度を高める工夫をする。 ○ 村上さんの生き方から、苦難や困難との向き合い方や努力し続けることのすばらしさを感じ取らせる。

<p>3 挑戦し続けて生きることのよさを考える。 【15分・個人→小集団→全体】</p>	<p>◎ 村上さんが目標に向かって、挑戦し続けることができるのはどうしてだろうか。 ・周りの人への感謝の気持ち。 ・達成感を味わいたい。 ・自分の可能性を試したい。</p>	<p>○ 様々な困難に立ち向かいながらも目標達成に向けて努力を続ける理由を小集団で考えさせる。</p>
<p>4 自分を振り返る。 【10分・個人→全体】</p>	<p>○ 村上さんの生き方から自分自身について振り返り、考えたことをまとめよう。 ・自分を信じて自分の可能性を伸ばしたい。 ・自分に自信が持てるようになった。 ・自分の頑張る姿により、他の人も頑張れたり、喜んだりする。</p>	<p>◇ 目標の達成に向けて努力することの素晴らしさを感じ取り、自身の目標の達成に向けた前向きな思いを持つことができたか。  (ワークシート)</p>

(2) 研究協議と指導助言

- 教材の主人公が義足で活動する様子で動画で見せたり、生い立ちを年表にまとめたりすることで、主人公がおかれている状況がイメージしやすくなり、気持ちを考えやすくなった。本教材の主人公の義足のように、生徒が普段の生活の中で見掛けることが少ないものを扱う際には、教材の骨子をつかむためにも本授業のような工夫が効果的である。
- 小集団での話し合い活動がスムーズに行われていた。司会をする生徒が話し合いの手順に沿って進行することで、各グループで活発な意見交流が行われていた。
- 教材分析シート(資料1)を作成し、授業のねらいや展開等がしっかりと計画されていた。また、事前アンケートを実施し、その結果を用いることで、学級や生徒の実態に合った授業になっていた。
- 教師の問い返しが少なく、授業が淡々と進んでいった。登場人物の思いに迫り、子どもたちの本音を引き出すためにも、事前に効果的な問い返しを計画しておく必要がある。

4 研究の成果と今後の課題

- 東温市道徳委員会夏季研修会を愛教研小・中学校道徳教育研究大会と兼ねたことで、道徳主任以外の教員も参加しやすかった。また、各分科会や特別講演の内容が充実しており、2学期からの授業実践につながった。
- 同じ市内にある中学校の授業を見せていただいたことで、小・中のつながりを意識した道徳科の授業について研究を深めたり、共通理解を図ったりすることの重要性を感じた。今後も小・中の交流ができるように計画していきたい。

教材名(出典)	風を感じてー村上清加のチャレンジ(東京書籍「新訂 新しい道徳1」)	
主題・内容項目	挑戦し続けること【内容項目】A-(4)希望と勇気、克己と強い意志	
教材を読む(骨子をつかむ)	①生き方を自覚(変化)したのは誰か(主人公)	主人公(村上清加さん)
	②生き方を自覚(変化)することになった出来事(助言)は何か	風を感じられたときの感動
	③生き方を自覚(変化)するのはどこか	タイムが縮まってくのが楽しく、自信の成長が感じられた
〈構図〉		
ねらい	<p>(A) 目標の達成に向けて前向きに挑戦し続ける (道徳的に変化する) 主人公の生き方を通して</p> <p>(B) 強い意志と、前向きに努力 しようとする</p> <p>(C) 道徳的心情 を育てる。</p>	
※書き方	<p>(A):教材の活用を簡潔にする。(主人公が道徳的に変化する場合、「出来事(助言)」の部分抜き出して表記する。)</p> <p>(B):内容項目から適切に抜き出す。</p> <p>(C):道徳性の要素(道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度)を入れる。</p>	
本時で考える道徳的価値(上記3の(B)の理解)	<p>人としてよりよく生きるためには、目標や希望を持つことが大切である。日常生活の中の小さな目標であっても、それが達成されたときは満足感を覚え、自信と次に向けて挑戦しようとする勇気が起こるものである。中学生の時期は、希望と勇気を持って困難を乗り越える生き方に向ける時代でもある。しかし、理想通りにいかない現実が悩ましむ生徒も少なくない。</p> <p>そこで、生徒が困難に屈せず目標に向けて強い意志を持ち、前向きに努力しようとする心構えを育てたい。</p>	

資料1 教材分析シート

## 伊 予 支 部

### 1 研究主題

よりよく生きるための基盤となる道德性を養う道德教育の研究

－ 学びがいのある道德科の授業を要として －

### 2 研究のあゆみ

- (1) 伊予地区教科等研究集会(4月20日)  
役員選出、研究主題の設定、研究計画の立案
- (2) 常任委員研修会(9月15日)  
第1回主任会の運営方法について
- (3) 第1回道徳主任会(10月6日)  
松前町立北伊予小学校の研究授業参観と研究協議における話し合い

### 3 研究の内容

今年度は、松前町立北伊予小学校の研究授業参観と研究協議に参加することで、各学校の道徳主任の資質向上に努めた。以下、研究授業を中心にまとめた。

#### (1) 伊予地区教科等研究集会 授業実践 松前町立北伊予小学校 第6学年 金子友紀教諭

ア 主題名 感謝の心を大切にしよう【B 感謝】

イ 教材名 残された麦種－義農作兵衛－（『愛』ある愛媛の道德」愛媛県教育委員会）

ウ 本時のねらい

作兵衛やゲストティーチャーの思いについて考えたり、話し合ったりすることを通して、自分たちの生活が多くのの人々に支えられていることに気付き、そのことに対して感謝して、応えようとする道德的心情を高める。

#### エ 展開

学習活動	主な発問と実際の子どもの反応	○指導の留意点 ☆評価
1 本時のめあてに対する方向付けをする。	○ 義農作兵衛さんがどんなことをしたか知っていますか？ ・みんなに麦種を託して、自分は食べずに亡くなった。	○ 教材文を事前に読み、挿絵を提示しながら話の流れを振り返ることで、時代背景や人物の置かれる状況をより理解させる。
2 教材を読んで、登場人物の思いや自分の考えについて話し合う。 個人 ↓ 全体	○ 最後の力を振り絞って話した作兵衛さんはどんなことを思っていたでしょう。 ・たくさんの人を救いたい。 ・村の未来のため、この1俵を託すしかない。 ○ なぜ作兵衛さんは麦種を食べなかったのでしょうか。 ・家族が食べなかったのに、自分だけ食べていいのか。 ・自分一人より他の人が助かった方がいいから。	○ 村人に麦種への思いを託す作兵衛さんの気持ちを考えることで、村人を守り続けたいという思いや願いの強さを感じ取らせる。
3 ゲストティーチャーの話の聞く。	○ 作兵衛さんの強い思いを受け継ぎ、活動している松前町役場の小笠原さんの話を聞きましょう。	○ ゲストティーチャーには、義農精神を受け継いで活動する中で、大切にしている思いや、児童への願いを重点的に話していただくことで、作

<p>4 「あいあい タイム」 個人 ↓ グループ ↓ 全体</p> <p>5 振り返りを する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分たちを支えてくれている人たちのことを 考えよう。</p> </div> <p>◎ 作兵衛さんや小笠原さんの思いを聞いて、私 たちの生活を支えてくれている人たちへの思い を伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兄弟→いつも支えてくれる。恩返ししたい。</li> <li>・親→いつも支えてくれてありがとう。</li> <li>・友達→一人の子がいないようにしたい。</li> <li>・地域の人→元気に挨拶をしていきたい。</li> <li>・先生→楽しく活動できるよう支えてくれている。</li> <li>・社会→たくさん働いてくれているから平和な 生活ができています。自分たちが働いて次の世 代に渡す。</li> </ul> <p>○ 学習を通して『感謝』について学んだことを発 表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、松前の思いを大切にしたい。</li> <li>・一人では生きていけないと思った。</li> <li>・自分たちはいろんな人に支えられていることに 気付いた。</li> </ul>	<p>兵衛に対する尊敬と感謝の 気持ちを深めたり、日々の 生活を支えてくれている人 に気付いたりすることができ るようにする。</p> <p>○ 思考ツールを用いて、自分 の考えを広げることで、自分 の生活を支えてくれる人の 存在に気付かせる。</p> <p>☆ 自分たちの生活が様々な 人に支えられていることに 気づき、それに感謝し、応え ようとする道徳的心情を高 めることができたか。(発言)</p> <p>○ 自分たちの生活を支えて いる人々への感謝の気持 ち、自己の生き方を振り返る ことで、価値の自覚を深め、 道徳的心情を高められるよ うにする。</p>
---	--	--

## (2) 研究協議

- 教材文を事前に読み、心に残ったことをワークシートまとめておくことで、教材への関心を高めたり、発問を受けた際に、より自分の考えが深められたりすることができていた。
- 教材とゲストティーチャーとのつながりが薄く、ゲストティーチャーと自分たちとの関わりに気付く働きかけを教師がする必要があった。
- あいあいタイム(話し合い活動)が自分の考えを伝えるだけの活動になっていたため、考えの相違や相手の考えを聞いて思ったことを伝え合うともっと深まりがあった。

## (3) 指導助言 帝京大学教育学部 赤堀 博行 先生

- ゲストティーチャーの話を直接に聞くことで、熱い思いに触れることができ、地域のよさを実感することにつながった。
- ゲストティーチャーの話の内容には様々な道徳的価値が含まれていたため、本時のねらいとする道徳的価値を明確にした上で、内容を精選する必要があった。

## 4 研究の成果と課題

- 伊予支部の研究の視点である「主体的・対話的で学びがいのある授業」の実現に向けた方法(話し合い活動における思考ツールの活用やゲストティーチャーの活用)を提案していただいた。小中の教員を交えてグループ協議を行い、様々な視点で意見交換ができた。
- 児童・生徒が多様な価値観に触れ、自分の自己の生き方(人間としての生き方)について考えることで「役に立った」「次も学びたい」と思える“学びがいのある授業”について、共通認識をもち、研究を進めていく必要がある。

## 上 浮 穴 支 部

### 1 研究主題

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の研究

－ 学びがいのある道徳科の授業を要として －

### 2 研究のあゆみ

(1) 上浮穴郡久万高原町研修活動協議会(4月21日)

役員選出、研究主題の設定、研究計画の立案

(2) 上浮穴郡教科等(道徳科)研究会(11月10日)

### 3 研究の内容

(1) 授業実践

ア 主 題 相手の立場も大切に【B 相互理解、寛容】

イ 教材名 すれちがい(日本文教出版)

ウ ねらい

よりよい人間関係を築くために大切な心を考えることを通して、相手の立場で考えたり気持ちを想像したりして、広い心で相手と互いに理解し合おうとする態度を育てる。

エ 展 開

学習活動	○主な発問と予想される児童の反応 ◎中心発問	○指導上の留意点 ◇評価
1 本時の学習課題をつかむ。	○ 友達と意見が分かれたときや、自分の気持ちを理解してもらえなかったときどうしますか。 ・無理だと思って諦める。 ・相手の考えに従う。 ・二人で話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             友達と分かり合うために大切なことは、何でしょうか。           </div>	○ 事前にアンケートを行い、導入で提示することで、児童が学習課題と自分の体験を結び付けやすくする。 ○ 友達とうまく付き合えなかったときの経験を想起させることで、登場人物の気持ちを想像しやすくする。
2 教材「すれちがい」を読んで考える。(教材前半を読む。)	○ ピアノ教室でえり子と会ったとき、よし子はどんな気持ちだったでしょうか。 ・えり子が約束を破ったから腹立つ。 ・私は電話できちんと時間を伝えたのに、えり子は約束を破った。 ・誘ったのはえり子さんなのに広場にも来ないなんてひどい。 ・もう一緒に行きたくない。 ・絶対に許せない。 ・連絡してくれたらよかったのに。	○ 教材のCDを聞かせる。その後で挿絵やセンテンスカードを掲示することで、時系列に沿って整理し、内容を理解しやすくさせる。 ○ えり子のことを考えず、自分のことを一方的に押し付けたよし子の気持ちを考えさせることで、すれ違いが起きた原因について考えさせる。
3 すれ違いが起きないためにはどうすれば良かったかを考える。	◎ どうすればすれ違いが起きなかったでしょうか。 ・電話があるまで待っておけばよかった。 ・勝手に時間を決めなければよかった。	○ えり子の行動や心情を時系列に沿って整理し、すれ違いの原因を分かりやすくさせる。

<p>(教材後半を読む。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝言ではなく帰ったら電話をくださいと言えばよかった。</li> <li>・家に迎えに行けばよかった。</li> <li>・相手の気持ちを考えればよかった。</li> <li>・優しい気持ちがあれば良かった。</li> <li>・相手を思いやる気持ちが必要だった。</li> </ul> <p>○ この後二人はどうなったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けんかしたまま悪口を言い合う。</li> <li>・気まずい関係となり、ピアノ教室を辞めてしまう。</li> <li>・ピアノの練習がつまらなくなった。</li> <li>・仲が悪いまましばらくけんかが続く。</li> <li>・きちんと謝る。</li> <li>・お互いの理由を話して仲直りできた。</li> <li>・今日は怒っているけど、次の日に謝って仲直りする。</li> </ul>	<p>○ 互いに自分勝手な思いで行動したことを全体で共有し、足りない心があったことに気付かせることでねらいに迫る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>補助発問のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えり子(よし子)の立場から見ると?</li> <li>・どうして会うことができなかった?</li> <li>・二人は出会うための努力をしていた?</li> <li>・どうしてすれ違いが起きた?</li> <li>・すれちがいが起きないために電話をしていたのになぜ起きた?</li> <li>・○○すると本当にすれ違いは起きなかった?</li> <li>・なぜ○○しなかった?</li> <li>・○○しなかったのはどんな気持ちだったか?</li> <li>・自分ならできる?</li> <li>・この後どうするべき?</li> <li>・二人に足りなかったものは何?</li> </ul> </div>
<p>4 自分の生活を振り返る。</p>	<p>○ 今までの自分を振り返って、友達と分かり合うためにどんなことが大切だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まではできていなかったけど、これからは相手の意見をきちんと聞こう。</li> <li>・これからは、自分の気持ちや考えをきちんと伝えたい。</li> <li>・次は、違うと思ってもしっかり話し合いたい。</li> </ul>	<p>◇ 普段の生活を振り返り、自分と異なる意見や立場を受け入れようと思えることができる。</p> <p>(発表、ワークシート)</p>

## (2) 研究協議

- 児童の実態把握アンケートを郡内の小学5・6年生全員に協力してもらったことで、多様な意見に触れたり、自分たちと関連付けて考えたりすることができていた。導入で提示した際に、自分ごととして課題意識をもって学習に取り組もうとする姿が見られた。
- 教材文の内容のまとめ方が上手だった。移動黒板と黒板を使って、右から左へと時系列に沿って、二人の行動や言動についてまとめていた。また、児童の発言をもとに教材の説明をしたり、板書計画が構造的になされたりしていたので、分かりやすかった。
- 相互理解や異なる立場を受け入れることについて考えられるよい教材であった。「問題点をなくせばよかった」ではなく、人間関係上のトラブルをなくすことは不可能であるからこそ、お互いを許し合い、理解し合うことの大切さに児童が気付けるとよかった。

## 4 研究の成果と今後の課題

本研究を通して、少人数で道徳授業を行うことのよさと難しさを感じた。郡内の学校の児童・生徒は、主体的に学習に参加しており、一人一人の授業への貢献度も高い。一方で人数が少ないため、多様な意見に触れる機会が乏しく、議論することが難しい。本研究では、他校の児童・生徒に協力を仰ぐことで、問題の解決を試みた。解決の糸口を見いだすことはできたが、その方法は一通りではなく、まだまだ模索していく必要がある。郡内の学校のほとんどが小規模校であり、同じ問題を抱えているため、各校が連携を密にとり、協働して問題解決に取り組んでいきたい。そして、「少人数数学級における、考え、議論する道徳」の実現を目指したい。

# 大洲支部

## 1 研究主題

よりよく生きるための基盤となる道德性を養う道德教育の研究

－ 学びがいのある道德科の授業を要として －

## 2 研究のあゆみ（令和4年度より、心の教育専門委員会としても活動）

- (1) 第1回道德班会（4月19日）
- (2) 第2回道德班会（6月23日）
- (3) 第3回道德班会 <部会別で実施>（7・8月）
- (4) 大洲市教育研究所一斉班会 <5会場で実施>（10月11日）
- (5) 第4回道德班会（1月実施予定）

## 3 研究の内容

大洲市道德班会は、令和4年度より、大洲市教育研究所「心の教育専門委員会」として、大洲ゆかりの先哲に学ぶ道德教材の開発及び授業実践の提案を進めている。

1年次である令和4年度は、水産業及び長浜地区発展のために尽くした西村兵太郎氏の教材化に取り組むこととし、西村氏に関する教材や情報の収集・精選を行った。また、小学校低・中・高学年、中学校の部会に分かれ、発達段階に応じた教材の作成を進めた。

2年次である本年度（令和5年度）は、具体的な授業実践に向けて教材の検討・修正や指導案の作成、授業研究を行った。

3年次である来年度（令和6年度）は、本研究「大洲ゆかりの先哲に学ぶ教材開発及び授業実践」についてまとめたものを誌面発表する予定である。

### (1) 各部会での教材・学習指導案作成

- ア 発達段階に合わせた内容項目・ねらいの検討
- イ 教材の作成と検討
- ウ 学習指導案や準備物の作成と検討
- エ 事前授業の実施と改善
- オ 研究授業のサポート
- カ 教材と学習指導案の修正、今後の方向性

### (2) 研究授業 大洲市教育研究所一斉班会 <5会場で実施>

一斉班会においては、小学校部会では西村兵太郎氏の教材、中学校部会では「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」を主題とする教材の授業公開を行った。

ア 長浜小学校会場 第2学年 藤井 禎子 教諭

(ア) 主題名 わたしたちの国や町【C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】

(イ) 教材名 見つけてみよう すてきな町（大洲市心の教育専門委員会作成教材）

(ウ) ねらい 我が国や自分の暮らす町に親しみ、愛着を持って生活しようとする心情を育てる。

(エ) 研究協議 [○授業について ◇教材について]

○ 生活科「町探検」と関連付けることで、自分の経験と結び付けながら思いを素直に表現することができ、地域のよさを感じ取っていた。よさを伝える相手意識があるとよい。

◇ 教材や学習展開については、言葉や発問等を精選するとよいのではないか。

イ 肱川小学校会場 第4学年 向井 秀太 教諭

(ア) 主題名 わたしたちのふるさと【C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】

- (イ) 教材名 受け継がれた思い～西村兵太郎～(大洲市心の教育専門委員会作成教材)
- (ウ) ねらい 先人の努力、地域の人の願いを知り、地域の一員として文化や伝統を大切にしようとする心情を育てる。
- (エ) 研究協議 [○授業について ◇教材について]
- 穏やかな雰囲気での授業であり、教材準備やICT活用等の工夫が見られた。補助発問や問い返し、ペアの対話や表現方法の工夫等を取り入れると、主体的な発言につながる。
- ◇ よい教材だが、中学年には文章が長い。また、表現が難しいため、改善が求められる。
- ウ 三善小学校会場 第5・6学年 谷岡 尚 教諭
- (ア) 主題名 わたしたちの地域のために【C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】
- (イ) 教材名 西村兵太郎物語(大洲市心の教育専門委員会作成教材)
- (ウ) ねらい 先人の努力や地域の方の思いを知り、郷土を愛する心を持つとともに、自分たちの住んでいる地域をよりよくしていく態度を育てる。
- (エ) 研究協議 [○授業について ◇教材について]
- ゲストティーチャーの話(三善小学校の児童への思い)を聞くことで、本時のねらいを達成することができていた。日頃から、学校と地域の方とのつながりを大切にしていかなければならない。
- ◇ 教材の郷土愛を扱うことで、自分たちの地域に目を向けさせる構成となっていた。
- エ 大洲東中学校会場 第1学年 大本 尚美 教諭
- (ア) 内容項目 【C 郷土の伝統と文化の尊重、強度を愛する態度】
- (イ) 教材名 ぼくのふるさと(東京書籍)
- (ウ) ねらい ふるさとを愛し、ふるさとのためにできることをしたいと願う作者の気持ちに触れることで、自分が生まれ育ったふるさとのためにできることを考えようとする意欲を高める。
- (エ) 研究協議 [○授業について ◇教材について]
- 全員が自分の意見を言うことができる雰囲気であった。発問の精選やゲストティーチャーとの打合せを行うと、授業のねらいを絞ることができるのではないかと。
- ◇ 地域人材は、住みよい地域のために尽力した人と捉えたのでよいのではないかと。
- オ 肱川中学校会場 第1学年 露口 知子 教諭
- (ア) 内容項目 【C 郷土の伝統と文化の尊重、強度を愛する態度】
- (イ) 教材名 エール～誰もが誰かの応援団～(肱川中学校教職員作成教材)
- (ウ) ねらい 地域の人々の生き方や努力を知ることによって尊敬の念を深め、郷土を愛する態度を育む。
- (エ) 研究協議 [○授業について ◇教材について]
- 自作教材に対して、ねらいに迫る主発問や学習形態の工夫等が適切に準備されており、意見が活発に発言されていた。問い返しによる心の揺さぶりをさらに加えたい。
- ◇ 生徒にとって身近な地域人材を取り上げ、学校全体の協力体制で作成したすばらしい自作教材であった。

#### 4 研究の成果と課題

大洲ゆかりの先哲に学ぶ道徳教材の開発及び授業実践の提案を進めて2年次となる本年度は、作成教材を基にした授業研究の実施に向けて研修を深めることができた。各学校での授業研究を受けて、作成した教材や学習指導案について、地域性や児童・生徒の発達段階の面を考慮した改善・検討の必要性を感じている。

1月に実施予定の第4回道徳班会において、各部会の成果と課題、今後の方向性を共有し検討していくことで、次年度には、各学校で活用できる教材提供や地域人材開発の提案を行いたいと考える。

# 喜多支部

## 1 研究主題

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の研究

ー 学びがいのある道徳科の授業を要として ー

## 2 研究のあゆみ

(1) 喜多郡小・中学校道徳委員会(4月19日)

(2) 喜多郡道徳部会研修会(小学校12月1日、中学校11月29日)

## 3 研究の内容

(1) 研究授業 第4学年 内子町立天神小学校 尾崎 巧 教諭

ア 主題名 友達への注意【B 友情、信頼】

イ 教材名 大きな絵はがき(「新しい道徳4」東京書籍)

ウ ねらい 登場人物が友達に本当のことを話すか話さないかについて考える活動を通して、よい友達関係には、時には助言し合えるような信頼関係が必要なことに気付くことで、友達とよりよい関係を築いていこうとする実践意欲を育てる。

エ 準備物 ワークシート、挿絵

オ 展開

学習活動	○主な発問 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点(◎評価)★合理的配慮)
1 「友達」とは何かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達とは、どんな人ですか。</li> <li>・困ったときに助けてくれる。</li> <li>・遊んでくれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達とは、どういうものかという考えさせる。</li> </ul>
もっとよい友達になるために大切なことは何かを考えよう		
2 教材の前半を聞いて話合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 転校していった仲良しの正子から絵はがきをもらって、広子はどんな気持ちだったのでしょうか。</li> <li>・久しぶりだな</li> <li>・うれしいな</li> <li>・自分のことを覚えていてくれて良かった</li> <li>○ 兄や母は、どんなことを考えて、広子にアドバイスをしたのでしょうか。</li> <li>&lt;兄&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達なら、教えてあげた方がいい</li> <li>・同じ間違いをしたら正子がかわいそう</li> </ul> </li> <li>&lt;母&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・嫌な気持ちにさせるから、教えない方がいい</li> <li>・仲が悪くなるかもしれない</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定形外の絵はがきを提示することで、教材への理解を助け、自我関与を高める。</li> <li>○ 兄と母の両方の思いを考えさせることで、多面的・多角的に考えを深めさせる。</li> <li>○ 教材を前後半に分けることで、広子の葛藤について考えを深めさせる。</li> </ul>
3 教材の後半を聞いて話合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 広子は、どうして正子に伝えようと思ったのでしょうか。</li> <li>・友達だから</li> <li>・知らなかったら、また間違うから</li> <li>・正子のためだから</li> <li>○ 広子が正子に伝えたことで、友達関係は今後どのように変わったのでしょうか。</li> <li>・友達関係は、今まで通り変わらない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広子のいろいろな思いを話し合うことで、その根底にある正子との友情に気付かせる。</li> <li>○ 問い返しをすることで、友情や信頼関係について考えを深めていく。</li> </ul>

<p>4 道徳的価値について考えを深める。</p>	<p>○ もっとよい友達になるために、広子と正子の両方に大切なことは、何でしょうか。 ・相手のことを理解したり信頼したりすること</p> <p>○ もし、あなたが広子と同じような立場だったら伝えると思いますか。 ・伝える ・伝えない</p>	<p>○ 道徳的価値の自覚を促すために友達の信頼について何が大切なことかについて考えさせる。</p> <p>○ 自分事として捉えられるように理由も考え、問い返しをしながら考えを深めさせる。</p> <p>◎ もっとよい友達関係を築くために大切なことについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。</p>
<p>5 自分を振り返る。</p>	<p>○ 今日の学習を通して、心に残ったことや思ったことを発表しましょう。</p>	<p>★ 個別に声を掛ける。</p>

<研究の視点>

- 発問や授業展開は、多面的・多角的に考えを深めることに有効であったか。
- 展開後段で、自分が広子の立場になって考えさせたのは、自分との関わりについて考えを深めるために有効であったか。

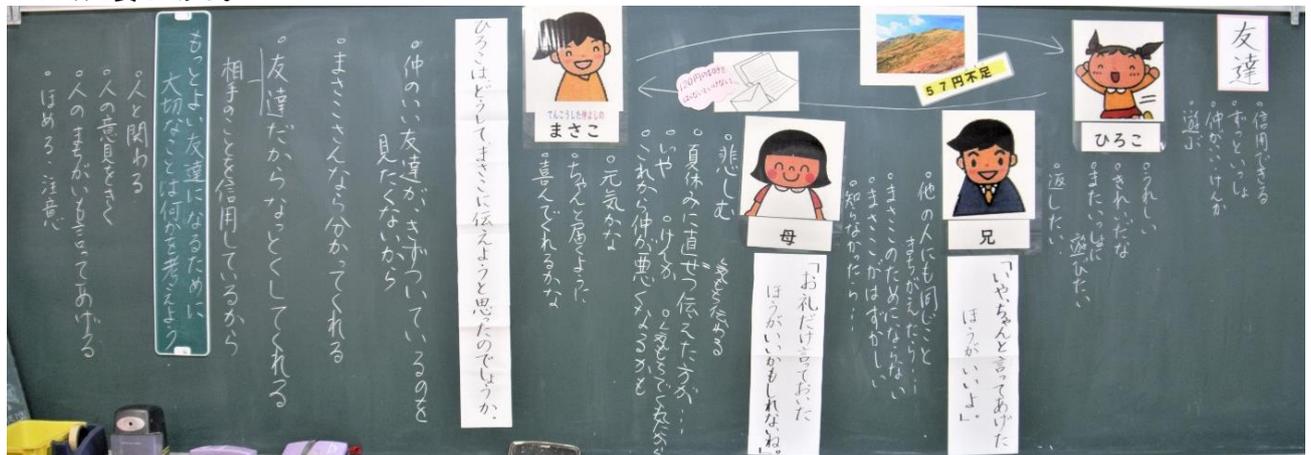
(2) 研究協議

- 児童の実情に合った教材を選ぶことが大切である。(切手の追加料金が必要になるという状況が今の児童にはピンとこない。)
- 受容的な雰囲気があり、児童が安心して発言できていた。
- 中心発問を「広子がきっと分かってくれると分かっている、そうしようと思った原動力は何でしょうか」にするとよかったのではないか。
- 問い返しは、具体(経験)を聞くことが大切である。例:「よい友達とはどんな友達ですか。」→「友達がいて良かった経験はありますか。」

4 研究の成果と今後の課題

外部講師を招き、指導を受けることで授業改善が進み、道徳の授業づくりに対する教師の意識が向上した。また、教材分析シートを活用することで、教師自身が道徳的価値について考え、ねらいを明確にしたり、中心発問や学習活動を吟味したりすることができた。

児童が自己を見つめ、よりよい生き方について考えを深めることができるようになるためには、更なる授業改善はもとより、教育活動全体を通したカリキュラムマネジメントがとても大切である。体験活動・体験学習と道徳科の有機的連携に向けて、道徳的価値との結び付きを多様に構想し、重点化・焦点化していく必要がある。



## 八 幡 浜 支 部

### 1 研究主題(小・中共通)

よりよく生きるための基盤となる道德性を養う道德教育の研究  
 — 学びがいのある道德科の授業を要として —

### 2 研究のあゆみ

- (1) 第1回市教育研究大会(4月17日)  
 役員選出、研究主題の設定、研究計画立案
- (2) 第2回市教育研究大会(10月24日)  
 授業研究

### 3 研究の内容

#### (1) 研究授業

第3学年 授業者 八幡浜市立神山小学校 教諭 中岡 嘉寿穂

ア 主題名 友達の気持ちになって【B 友情、信頼】

イ 教材名 たつきゅうは四人まで(「生きる力」日本文教出版)

ウ 本時の指導

- ねらい 友達のことを大切にしなければならないことは分かっている、できないときの後ろめたさについて深く考えるを通して、友達の気持ちを考え、互いに信頼し、助け合おうとする心情を育てる。
- 展開

学 習 活 動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
1 これまでの経験を振り返る。	○ 友達と仲よくするためには、どのようなことに気を付けたらいいと思いますか。 ・困っていたら助ける。 ・仲間はずしをしない。 ・けんかをしない。	○ 自分と友達との生活を振り返り、本時のねらいとする道德価値への問題意識を持つことができるようにする。
2 教材「たつきゅうは四人まで」を読んで考え、話し合う。	○ 教材「たつきゅうは四人まで」を読みましょう。 ○ しゅんがおとの願いをことわったのは、どんな思いからでしょうか。 ・ダブルスだから、5人はだめ。 ・やっと予約がとれたし、時間が1時間半しかない。 ・とおるは特別仲がよかったわけではない。  ◎ 卓球をあまり楽しめなかったとき、しゅんはどんなことを考えていたでしょう。 ・とおるを傷つけてしまった。 ・とおるは親切にしてくれたのに。 ・とおるも仲間に入れればよかった。 ・もう一度とおるに謝ろう。	○ 教材を範読する。 ○ しゅんと一緒に遊びたいというとおるの願いを断った理由を考えさせ、以降の展開での考えと関連付ける。 ○ 思考ツール「クラゲチャート」を使って、自分の考えを見えるようにする。 ○ とおるとの関係がうまくいかなかったことで楽しめなかったということに気付かせ、友達とのよりよい関係を築くことの大切さを考えられるようにする。

3 学んだことをもとに、自己の生き方についての考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 卓球を楽しむために、どんな思いがあればよかったのでしょうか。</li> <li>・とおると仲よくなりたい。</li> <li>・とおるとも卓球をやってみよう。</li> <li>・とおるは、この間手伝ってくれたなあ。</li> <li>・断ると、とおるは悲しむだろう。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達と仲よくするためには、今日学んだことをどのように生かせるでしょう。</li> <li>・友達の気持ちを考える。</li> <li>・友達に近づいていこうとする。</li> <li>・友達のよいところを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 思考ツールを使って、よりよい関係を築くためには、友達の気持ちをよく理解して相手のことを分かろうとすることの大切さに気付かせたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の生活に置き換えて考え、友達と互いに信頼し、助け合おうとする思いを深めることができるようにする。</li> </ul>
4 詩を朗読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ともだちになるために」の歌詞を読みましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歌詞を読み、余韻を持って終える。</li> </ul>

## (2) 研究協議

### ア 自評

- 普段から多様な意見が出せる子供たちだが、大事なところで意見がまとまらなかったり、話し合いが深まらなかったりすることが課題である。今日もねらいまで深く考えられた子、そこまで至らなかった子など個人差があった。
- 主発問をどうするか悩んだ。今回は、自分の過ちに気付くところに重きを置き、そこから深く考えさせたいと思い、主発問を設定した。
- 子供たちの普段の様子から、「物事を行う前にじっくり考える」ことを重視し、断った場面に一度戻る展開にしたが、それでよかったのか。

### イ 協議

- 挙手をして発表していなくても、しっかり自己内対話をして、考えを書くことができていた。ねらいに迫る内容が書けており、1時間で子供の思考の変化が見られた。
- 主発問の後に、前の場面に戻って再度考えさせることで、自分の行動と重ねながら振り返ることができていた。主人公の思いだけでなく、実際の行動や言葉から考えさせたのも効果的だった。
- 思考ツールが効果的に使用され、いろいろな考えを引き出すことができていた。

### ウ 指導助言

教材内の言葉の説明を丁寧にすることで、子供たちから素敵な意見が出てきていた。その意見を使って、授業を展開する方法もある。また、気持ちを考えるだけでなく、行動面に注目させて学習を進める方法もある。教師の切り返しがうまく、子供たちの本音を出させるのに効果的だった。

## 4 研究の成果と今後の課題

研究授業を通して、何を学ばせたいのか教師が重点内容項目を明確にして授業を行うことが大切であることを再認識することができた。道徳科の授業でのICTの活用や主体的・対話的な学習活動の工夫について更に研修を進め、より深い学びとなるよう授業改善を図っていく必要がある。

# 西 宇 和 支 部

## 1 研究主題(小・中共通)

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の研究

－ 学びがいのある道徳科の授業を要として －

## 2 研究のあゆみ

### (I) 第1回町教育推進集会(4月17日)

役員選出、研究主題の設定、研修計画立案

## 3 研究の内容

昨年度、伊方小学校で特色ある道徳教育推進事業の研究発表大会が開かれた。その機会を通して各校の道徳教育の充実が図られるように努めた。その中の、道徳タイムについて紹介する。

### (I) 道徳タイム指導案

伊方小学校では、週1回、朝学習の時間に「道徳タイム」を実施している。15分間の道徳タイムでは、最初の5分間を使って、道徳の授業の振り返りを書かせている。残りの10分間は、対話を重視した「道徳あそび」を実施している。「道徳あそび」では、児童同士で対話することの楽しさを感じ取り、議論するための技能を身に付けることを目指している。この時間を楽しみにしている児童も多い。

1 目的 「道徳あそび」を通して、議論の技能向上を図る。	1 目的																								
<p>2 内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">活 動 内 容</th> <th style="width: 50%;">留 意 点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活動1:「道徳あそび1」をする。 ○班で数字かぞえ (指名なし討論のトレーニング) グループで順番数えをする。</td> <td>*グループで順番を決めずに1から順に10まで数える。 *他の人と重なったら、もう一度、1から始める。</td> </tr> <tr> <td>活動2:「道徳あそび2」をする。 ○友だちのなくし物、探す? (モラルジレンマ学習)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 自分の考えを発表する。 T 帰宅時刻になりました。友だちが帽子をなくして困っています。一緒に探してあげるべきでしょうか?それとも、帰宅時刻を守るべきでしょうか?</td> <td>*どちらがいいと思うか、発表させる。 *考えた理由も言わせる。 *それぞれの意見に対する質問や意見を言わせる。</td> </tr> <tr> <td>(2) お互いに意見を交わし合う。 T 質問や意見は、ありませんか。</td> <td>*問い返しをしてゆさぶる。</td> </tr> <tr> <td>(3) 話し合いの感想を発表する。 T 話し合っ、思ったことや気付いたことはありませんか。</td> <td>*友達の見聞を聞いて考えが変わった児童がいればそれを発表させる。</td> </tr> </tbody> </table>	活 動 内 容	留 意 点	活動1:「道徳あそび1」をする。 ○班で数字かぞえ (指名なし討論のトレーニング) グループで順番数えをする。	*グループで順番を決めずに1から順に10まで数える。 *他の人と重なったら、もう一度、1から始める。	活動2:「道徳あそび2」をする。 ○友だちのなくし物、探す? (モラルジレンマ学習)		(1) 自分の考えを発表する。 T 帰宅時刻になりました。友だちが帽子をなくして困っています。一緒に探してあげるべきでしょうか?それとも、帰宅時刻を守るべきでしょうか?	*どちらがいいと思うか、発表させる。 *考えた理由も言わせる。 *それぞれの意見に対する質問や意見を言わせる。	(2) お互いに意見を交わし合う。 T 質問や意見は、ありませんか。	*問い返しをしてゆさぶる。	(3) 話し合いの感想を発表する。 T 話し合っ、思ったことや気付いたことはありませんか。	*友達の見聞を聞いて考えが変わった児童がいればそれを発表させる。	<p>2 内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">活 動 内 容</th> <th style="width: 50%;">留 意 点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活動1:道徳の授業の振り返りをする。 ワークシートに授業の振り返りを記入する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>活動2:「道徳あそび」をする。 ○ これ、おいしい? (モラルジレンマ学習)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 自分の考えを発表する。 T 友達がクッキーを作ってきてくれました。しかし、おいしくありません。友達は、「これ、おいしい?」と尋ねてきました。うそをつくべきでしょうか。それとも、正直にいうべきでしょうか。 児童:「おいしい。」と言います。友達が作ってくれたからです。 児童:「おいしくないよ。」と教えてあげます。うそをつくの、よくないからです。</td> <td>*どちらがいいと思うか、発表させる。 *考えた理由も言わせる。 *それぞれの意見に対する質問や意見を言わせる。</td> </tr> <tr> <td>(2) お互いに意見を交わし合う。 T ここからは、自由に話し合しましょう。 児童:うそは、よくないけれど、本当のことを言うと、友達がいやな気持ちになると思います。 児童:本当のことを言うと、友達が傷つくから、しかたがないと思います。</td> <td>*問い返しをしてゆさぶる。</td> </tr> <tr> <td>T 話し合いをして、どう考えましたか。 児童:本当のことを言うときは、友達が傷付かないように言い方を考えればよかったと思います。</td> <td>*友達の見聞を聞いて考えが変わった児童がいればそれを発表させる。</td> </tr> </tbody> </table>	活 動 内 容	留 意 点	活動1:道徳の授業の振り返りをする。 ワークシートに授業の振り返りを記入する。		活動2:「道徳あそび」をする。 ○ これ、おいしい? (モラルジレンマ学習)		(1) 自分の考えを発表する。 T 友達がクッキーを作ってきてくれました。しかし、おいしくありません。友達は、「これ、おいしい?」と尋ねてきました。うそをつくべきでしょうか。それとも、正直にいうべきでしょうか。 児童:「おいしい。」と言います。友達が作ってくれたからです。 児童:「おいしくないよ。」と教えてあげます。うそをつくの、よくないからです。	*どちらがいいと思うか、発表させる。 *考えた理由も言わせる。 *それぞれの意見に対する質問や意見を言わせる。	(2) お互いに意見を交わし合う。 T ここからは、自由に話し合しましょう。 児童:うそは、よくないけれど、本当のことを言うと、友達がいやな気持ちになると思います。 児童:本当のことを言うと、友達が傷つくから、しかたがないと思います。	*問い返しをしてゆさぶる。	T 話し合いをして、どう考えましたか。 児童:本当のことを言うときは、友達が傷付かないように言い方を考えればよかったと思います。	*友達の見聞を聞いて考えが変わった児童がいればそれを発表させる。
活 動 内 容	留 意 点																								
活動1:「道徳あそび1」をする。 ○班で数字かぞえ (指名なし討論のトレーニング) グループで順番数えをする。	*グループで順番を決めずに1から順に10まで数える。 *他の人と重なったら、もう一度、1から始める。																								
活動2:「道徳あそび2」をする。 ○友だちのなくし物、探す? (モラルジレンマ学習)																									
(1) 自分の考えを発表する。 T 帰宅時刻になりました。友だちが帽子をなくして困っています。一緒に探してあげるべきでしょうか?それとも、帰宅時刻を守るべきでしょうか?	*どちらがいいと思うか、発表させる。 *考えた理由も言わせる。 *それぞれの意見に対する質問や意見を言わせる。																								
(2) お互いに意見を交わし合う。 T 質問や意見は、ありませんか。	*問い返しをしてゆさぶる。																								
(3) 話し合いの感想を発表する。 T 話し合っ、思ったことや気付いたことはありませんか。	*友達の見聞を聞いて考えが変わった児童がいればそれを発表させる。																								
活 動 内 容	留 意 点																								
活動1:道徳の授業の振り返りをする。 ワークシートに授業の振り返りを記入する。																									
活動2:「道徳あそび」をする。 ○ これ、おいしい? (モラルジレンマ学習)																									
(1) 自分の考えを発表する。 T 友達がクッキーを作ってきてくれました。しかし、おいしくありません。友達は、「これ、おいしい?」と尋ねてきました。うそをつくべきでしょうか。それとも、正直にいうべきでしょうか。 児童:「おいしい。」と言います。友達が作ってくれたからです。 児童:「おいしくないよ。」と教えてあげます。うそをつくの、よくないからです。	*どちらがいいと思うか、発表させる。 *考えた理由も言わせる。 *それぞれの意見に対する質問や意見を言わせる。																								
(2) お互いに意見を交わし合う。 T ここからは、自由に話し合しましょう。 児童:うそは、よくないけれど、本当のことを言うと、友達がいやな気持ちになると思います。 児童:本当のことを言うと、友達が傷つくから、しかたがないと思います。	*問い返しをしてゆさぶる。																								
T 話し合いをして、どう考えましたか。 児童:本当のことを言うときは、友達が傷付かないように言い方を考えればよかったと思います。	*友達の見聞を聞いて考えが変わった児童がいればそれを発表させる。																								

資料1 研究大会当日の特別支援学級の道徳タイムの指導案

資料2 研究大会当日の3年生の道徳タイムの指導案

## (2) 道徳タイムの様子



資料3 特別支援学級の様子



資料4 3年生の様子

## (3) 研究協議

Q 道徳の振り返りやモラルジレンマを道徳タイムで行っている意図は？

A 授業内に中心発問と振り返りの二つの書く活動を取り入れることが難しい。授業では、中心発問でしっかりと考えさせる時間を確保したいと考え、別日に道徳タイムで授業の振り返りを行っている。また、授業の中で深まった児童の考えが授業後どう残っているか知りたいと考えた。モラルジレンマについては、対話することが楽しいという思いを子どもたちに体験させたいと考え、取り入れている。

道徳タイムで、自分の思いを伝え合う体験を重ねることは、何でも言い合える集団を育てていくことにつながるのではないかと考えている。

## (4) 指導助言（愛媛県教育委員会 義務教育課教育指導グループ 赤松聖則指導主事）

- 対話的な学びを充実させるポイントは、対話の良さの実感と支持的風土である。学習指導要領にも、「日頃から何でも言い合える、認め合える、学級の雰囲気をつくる。」とある。ふだんから、対話によって学習が深まることを、体験を通して実感させておくことが大切だ。対話を通して楽しく交流する経験を積み重ねていくことで「対話の力」の実感へとつながっていく。
- 特別支援学級の道徳タイムでは、対話の楽しさを実感できる場面があった。帰宅時間になったけれど、友達の帽子を一緒に探してあげるか、帰るかの二択で子どもたちに挙手させたとき、別の考えを述べる児童がいた。先生がそれを認め、丁寧に理由を尋ねると、「みんなを呼んで来て、みんなで探す。一人じゃなくて。」と答えた。子どもたちが教師の枠に収まらない考えをしたときに、丁寧に聞いて認めることで、「対話って楽しいな。道徳って何でも言っていんだ。自分しかない考えを生み出すぞ。」という意欲に必ずつながると思う。支持的風土をつくるためには、他者の発言の聞き方が大切である。聞ける子ども、聞き合う学級にするために、聞ける教師にならなければならない。子どもたちの言葉にならない心の声を上手に拾い上げながら紡いでいくことが教師の役目である。
- 学校ホームページに、「意見には、正解も不正解もありません。同じ意見、違った意見があるだけです。だから、自信を持って発表して欲しい。」と人権参観日の保護者の意見が掲載されていた。自分の中で正しい答えを見つけて、人を思う心を養って欲しい。

## 4 研究の成果と今後の課題

伊方小学校の道徳タイムの取組から、対話を通して学び合うことの大切さを、多様な視点から考える機会となった。また、「道徳あそび」が、児童の自由な対話を促すきっかけになることも分かった。今後も、各校の道徳教育の取組を参観し合い、研修を深めていきたい。

## 西 予 支 部

### 1 研究主題(小・中共通)

よりよく生きるための基盤となる道德性を養う道德教育の研究  
 — 学びがいのある道德科の授業を要として —

### 2 研究のあゆみ

- (1) 西予市所属部会総会道德委員会(4月19日)  
役員選出、研究主題の設定
- (2) 第1回西予市道德委員研修会(6月22日)  
研修計画立案、西予市教育研究大会道德部会のもち方について
- (3) 第2回西予市道德委員研修会(8月16日)  
西予市教育研究大会道德部会の公開授業の指導案審議
- (4) 西予市教育研究大会道德部会(10月25日)
  - ア 授業研究
  - イ 松山市教育委員会人権啓発課 齊藤 照夫 先生による模擬授業及び講話

### 3 研究の内容

西予市教育研究大会で行った公開授業に対する授業研究

#### (1) 研究授業

第1学年 授業者 西予市立野村中学校 教諭 二宮 光

ア 主題名 心の弱さを乗り越えるために【D よりよく生きる喜び】

イ 教材名 銀色のシャープペンシル(東京書籍)

ウ 本時の指導

(ア) ねらい

心の弱さと良心の間で葛藤する主人公の気持ちを考えることを通して、弱さを乗り越えてよりよく生きていこうとする道德的実践意欲を育てる。

(イ) 展開

学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	○指導上の留意点◇評価
1 「心の弱さ」を感じた時の経験について考える。	○ どのような時に自分の「心の弱さ」を感じましたか。 ・すぐに諦めた時。 ・人のせいにした時。 ・ずるいことをした時。	○ 事前にアンケートをすることで、「心の弱さ」は誰もがもっていることやいろいろな心の弱さがあることを理解させる。
よりよく生きる喜び		
2 教材の内容について考える。 (1) 主人公「ぼく」の気持ちになって考える。  (2) 自分の弱さに気づき、それを打ち破ろうとする主人公「ぼく」の心を捉える。 (個人)	○ 卓也から謝られた時、自分ならどうするだろうか。 ◇本当のことを言う ・卓也に申し訳ないから。 ・自分のことが恥ずかしいから。 ◆黙ったままにいる ・自分に都合がいい。 ・本当のことを言ったら、みんなからどう思われるか不安だから。  ◎ 卓也の家へ歩き出した「ぼく」にはどんな心の変化があったのだろうか。 ・卓也に正直に謝りたい。 ・自分の気持ちに素直になりたい。 ・相手を信じて、誠実に生きていきたい。	○ 事前に教科書を読み、状況を絵や図で示すことで、登場人物の人間関係を捉えやすくする。 ○ 生徒用ICT端末を用いて自分の考えに近いところを示し、理由も述べるようにする。  ○ 個人で考えさせた後、班ごとに分かれ、話し合い活動を行うことで、多面的な思考を引き出し、道德的価値を深めさせたい。

↓ (班) ↓ (全体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう自分の弱さに負けたくない。</li> <li>・自分の良心に基づいた行動をしたい。</li> <li>・今までずっと人のせいにしていた自分を変えていきたい。</li> </ul>	◇ 話合いに真剣に参加し友達の意見から自分の考えを広げようとしているか。
3 自分を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今日の学習を通して、心の弱さを乗り越え、よりよく生きるためにはどういうことが大切だろうか。</li> <li>・自分の良心を大切にしていきたい。</li> <li>・人の考えや意見に流されないようにしたい。</li> <li>・もっと自分自身に自信を持って生活したい。</li> <li>・嘘をつかず、誠実に生きていきたい。</li> </ul>	◇ 学習を通して、心の弱さを乗り越えようとする気持ちは高まったか。

**(2) 研究協議(※一部掲載)**

- 一つ目の発問で、「言わない」といった数名の生徒はすごい。学級経営が素晴らしいから、小数意見でも言えていたのだと思う。そこを深く切り込めたらよかった。
- ピラミッドチャートで班の意見を一つにまとめず、多様な意見があってもいいのでは。
- 主発問はこれでよかったのか。教材を切って、結末を伝えずに流したらどうなったか。「なぜ変化したのか」にすれば、生徒から意見が出やすかったかもしれない。
- 最後の先生の体験は分かりやすかったが、「よりよく生きる」というのは、「正直に生きる」ということなのか。それ以外もあるのではないか。

**(3) 模擬授業 松山市役所人権啓発課 齊藤 照夫 先生**

- 導入段階  
本時で扱う指導内容に関し、「自分の心の弱さに気付いたこと」があるかどうかについて、生徒の生活を振り返りながら話し合う。(指導内容への導入)
- 展開前段(多様な価値観に触れる[道徳科の特質])
  - ・「ぼく」の心の「弱さ」や「醜さ」とはどのようなことだろう。
  - ・卓也の家へ歩き出した「ぼく」はどのようなことを考えているだろう。
  - ※ Y字チャートを使って、「本当のことを言おうとしたぼく」を、①ぼく②クラスみんな③卓也の3視点から多面的・多角的に考える。その際に生徒の価値観を引き出すことができるように問返しを行う。問返しのポイントは二つ(①どうしてそう思うかという生徒自身の内面にある思いに至るまで問うこと ②生徒自身の経験知としての具体を問うこと)。
- 展開後段(価値観の合意形成、共有化、よりよき自己の再発見[道徳科の特質])
  - ・弱さや醜さの克服についての価値観をもとに話し合う。
  - ・今までの自己を見つめ、弱さや醜さを克服したことがある自分探しを行う。そのような思いを抱いた友達をみんなで称え合う。
- 終末(最善解の獲得、自分は…[自己の生き方]から、人間は…[人間としての生き方]への視点の転換)
  - ・学習し、心に残ったこと、感じたことを発表する。
  - ※ 展開後段で「よりよき自己」を認識できれば、今後このように生きていきたいという思いが自然に芽生える。個人としての生き方を呈示し、提示された複数の生き方をもとに、更に「皆さんが考えた生き方から、こんな生き方が素晴らしいなど思えるものについて話し合ってみましょう」と合意形成を図る場を設ける。みんなで考えたよりよき生き方こそ「人間としての生き方」と考えたい。

**4 研究の成果と課題**

授業のねらいを達成するために、ICT端末や思考ツールを活用することは有効である。それらを含めた道徳科の指導方法について、情報交換をすることで研修を深めることができた。今後も、学びがいのある授業を目指して道徳科の特質を踏まえた堅実な研究を進めていきたい。

## 宇和島支部

### 1 研究主題

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の研究

－ 学びがいのある道徳科の授業を要として －

### 2 研究のあゆみ

- (1) 第1回教科等研究委員会(4月12日)  
常任委員の選出、研究計画の立案
- (2) 第2回教科等研究委員会(4月20日)  
常任委員の承認、研究主題・研究計画の協議
- (3) 道徳研究委員会 夏季研修会(8月10日)※荒天のため中止  
出前講座「今、求められる道徳教育」  
愛媛県教育総合センター 指導主事 藤内 大介 氏
- (4) 道徳研究委員会 授業研究会(11月22日)

### 3 研究の内容

- (1) 授業研究 宇和島市立番城小学校(6年生) 授業者 大塚 泰紀 教諭

ア 主題名 権利と義務【C 規則の尊重】

イ 教材名 ピアノの音が…(東京書籍)

ウ 本時のねらい

相手の権利を尊重するとともに自分の権利を正しく主張し、自分に課せられた義務を果たそうとする態度を育てる。

エ 展開

- (ア) 自分にはどんな権利があるのかを考え、本時のねらいをつかむ。
- (イ) 教科書を読んで、互いの権利を尊重することについて考える。
- (ウ) 身近な課題を取り扱う中で、自他の権利や義務について考える。
- (エ) 権利を主張するときに大切なことについて話し合う。
- (オ) 本時を振り返る。



資料1 アンケート結果の提示



資料2 考えをまとめる(個人)



資料3 考えを交流する(グループ)

## (2) 研究協議(課題と改善策)

- 「権利」と「義務」の理解
  - ・ 「義務」の理解が不十分だったため話し合いにおいて焦点が絞れず、考えを深め合うことが難しかった。
  - ・ 「義務」の捉え方が難しいため、「自分にできる周囲への配慮」「周り(みんな)と気持ちよく過ごすために気を付けること」など、別の表現に換えて考えさせる。
  - ・ 教材を通して、それぞれの立場や思いをしっかりと押さえ、「権利」と「義務」の理解につなげる。
  - ・ 「義務」と「きまり」の違いについての児童の発言の際に、全体に問い返すことで、「義務」について全体で理解を深めることができたのではないか。
- 考えを深めるための効果的な教師の問い返し
  - ・ ねらいに迫るために効果的な発問を設定する。
  - ・ 話し合う内容を焦点化し、立場を明確にして話し合うことで効果的な問い返しができる場面が増える。
  - ・ 児童の発言に対して、新たな考えや気づきに導く問い返しを意識して行う。(予想される児童の反応に対する問い返しの設定)
  - ・ 考えを深めさせたい学習活動に十分な時間を確保する。
- その他
  - ・ 児童がファシリテーターとしての役割を果たせるような指導に努める。
  - ・ 振り返りの時間を十分に確保する。



資料4 研究協議

## (3) 指導助言(宇和島市立明倫小学校 三浦 克文 校長)

- 道徳では、考え、議論する時間をしっかり確保することが必要である。予習など、事前にできることをさせておくのは一つのよい方法である。
- 指導内容項目は、「C 規則の尊重」であるので、一対一の関係だけでなく、集団の中における自分自身についても考えさせたい。
- 教材をもとに価値理解をしっかりとすることで、深まりのある話し合いにつながる。そして、権利と義務がぶつかり合った時に話し合うこと、譲り合うこと、お互いを思いやることの大切さをしっかりと落とし込みたい。
- 和やかな雰囲気での授業が進んでいた。実生活に生かすことができる授業実践は大切である。

## 4 研究の成果と課題

夏季研修会では、愛媛県教育総合センターの藤内大介氏をお招きして、出前講座「今、求められる道徳教育」を実施予定であったが、警報発令のため中止となった。道徳科の目標、道徳教育推進のためのICT活用や板書、教材分析と指導、評価等、様々な道徳教育推進や授業改善に関する資料を配布させていただいた。今後、各校での道徳教育推進、授業改善に生かしていきたい。

授業研究会での研究協議で取り上げられたキーワードは、「価値の理解」「問い返し」「時間配分」「振り返り」である。どれも考えを深め合うために大切であり、「学びがいのある道徳科の授業」につながる。これらを道徳科の課題として、宇和島市内各校で授業改善に取り組めるように共通理解を図りたい。

1 研究主題

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の研究

ー 学びがいのある道徳科の授業を要として ー

2 研究のあゆみ

- (1) 第1回道徳主任会(4月24日)・・・研究主題の設定と確認、研修計画の立案
- (2) 第2回道徳主任会(10月26日)・・・北宇和郡道徳授業研究会、情報交換

3 研究の内容

(1) 授業実践

第5学年 授業者 松野町立松野東小学校 教諭 西岡 渚  
 松野町立松野西小学校 講師 藤堂 大地

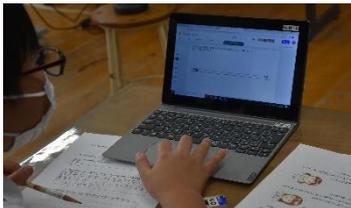
ア 主題名 差別は許さない【C 公正、公平、社会正義】

イ 教材名 なかなおり(「きょうだい」愛媛県同和教育協議会)

ウ 本時の指導

(ア) ねらい 何気ない言動が、相手を傷つけていることに気付かせ、差別することなく誰とでも仲良くしようとする心情を育てる。

(イ) 展 開

学習活動	主な発問と予想される反応	・指導上の留意点 ○評価 ■ICTの活用
<p>1 アンケート結果を見る。</p> <p>2 教材を読んで話し合う。</p> <p>(1) みんなの反応について考える。</p> <p>(2) りかさんの発言後、自分だったらどうするか考える。</p>	<p>○ だれかに言われて傷ついた言葉やされて嫌だったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に遊ばないと言われた。</li> <li>・あおられた。</li> <li>・無視された。</li> </ul> <p>○ だまっているとき、みんなはどんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当は入れてあげたかった。</li> <li>・みな子さんが変な顔つきで言いにくい。</li> </ul> <p>◎ りかさんの発言後、あなたがクラスの一員だったら、何か行動しますか、行動しませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恵美子に「ごめんね」と言う。</li> <li>・みな子が怖いから言わない。</li> <li>・行動したいけどどうしたらいいか分からない。</li> <li>・たしかに寄せなかったのはいけないと思うけど、勇気が出ない。</li> <li>・友達のために動くという考えがいいなど思った。</li> </ul>	<p>■ 相手校の表情が見られるように、一人一台端末でオンラインに接続する。</p> <p>■ ねらいとする道徳的価値への方向付けをするために、事前アンケートの結果を提示する。</p> <p>・みんながだまったときの気持ちを考えることで、何気ない言葉や態度が相手を傷つけることがあることに触れ、発言を促す。</p> <p>■ 自分だったらどうするか「行動する」「行動しない」の二択を提示し、立場をはっきりさせて話し合いやすくする。</p> <div data-bbox="1024 1736 1375 1944" style="text-align: center;">  </div> <p>・個人で考える時間を取ることで、自分の考えや理由を明確にし、発表を促す。</p>

<p>3 自分たちの生活を振り返る。</p>	<p>○ 自分の生活を振り返り、感想を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言われる人の立場に立って発言したい。</li> <li>・悪気はなくても相手にとったら傷ついていることもあると分かった。</li> </ul>	<p>■ 全体で友達の考えに触れることで、自分の考えを深めるように導く。</p> <p>○ 差別することなく誰とでも仲良くしようとする心情を持ち、これからの自分について考えようとしている。(発言・ワークシート)</p> 
------------------------	--	--

## (2) 研究協議

### ア 自評

松野東小学校5年生は2名のため、多様な意見が出にくい。多様な意見に触れるため、松野西小学校20名とオンライン授業をすることにした。松野西小学校とは、集団宿泊研修や学期に1回の交流会などで親交がある。オンライン授業は、2学期に入って他教科も含めて実施してきた。児童も教師もオンライン授業には慣れている状態だった。

反省点は、①板書のタイマーが見にくかった。②中心発問のところで意見に変化があった児童にその理由を聞くことが必要だった。③ジャムボードは話し合い中の言葉も打ち込むようにしたらよかった。

### イ グループ協議で出た意見(一部抜粋)

- 東小の2名の児童にとって、多様な価値観に触れることができるオンライン授業だった。
- 北宇和郡は小規模校が多いので多様な価値観に触れる機会を作ることは大切である。
- オンラインで他校とつながっての道徳の授業は、先進的な取組だと思う。
- 本時に至るまでの準備が丁寧に行われており、授業をスムーズに進めることができていた。
- ねらいとする価値観に迫るには、主人公の気持ちを考えさせたらよかった。
- 自分の生活を振り返る場面では、アンケートを生かしながら発言の根拠として活用することができるとよかった。
- 問い返してゆさぶりをかけたり、考える時間をじっくり取ったりするとよかった。
- りかさんの発言の価値に迫れるとよかった。

### ウ 指導・助言

指導要領が変わってから、考え、議論する道徳が重要になっている今、オンラインでの授業は、小規模校の児童が多様な意見に触れるいい機会となった。主体的・対話的で深い学びは、友達との対話と自分自身との対話から多面的・多角的に考えることで実現できるものだ。道徳の授業は教師と子供の人間関係が大切であるが、松野町は学校間での交流の機会が多くあるため、今回のようなオンラインでの授業が実現できたのだと思う。

## 4 研究の成果と課題

小規模校が多い北宇和郡にとって、オンラインでの交流を取り入れた今回の授業は、とても参考となる場面が多く、今後の授業改善に役立つアイデアがたくさんあった。今後も、授業研究や情報交換を行い、更に研修を深めていきたい。

# 南 宇 和 支 部

## 1 研究主題

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の研究

－ 学びがいのある道徳科の授業を要として －



## 2 研究のあゆみ

南宇和支部では、県の道徳科の研究主題に基づいて日々の授業実践や教育活動に取り組んでいる。今年度は、南宇和郡内の道徳委員会のメンバーが参集し、小学校第1学年の道徳科「よりみち」の研究授業、研究協議を行い、研究を深めた。

## 3 研究の内容

### (1) 授業実践

ア 主題名 きまりの大切さ【C 規則の尊重】

イ 教材名 よりみち(東京書籍)

ウ 学校名・学年・授業者 愛南町立家串小学校 第1学年 浅井 望 教諭

エ 主な授業の流れ

まず、きまりについての児童アンケートの結果を確認し、「きまりは何のためにあるのか考えよう」という本時のねらいとする価値への方向付けを図った。そして、「よりみち」という教材を読んで話し合う活動を行った。友達の子犬を見たいために寄り道してしまった女の子や、母親の涙を見た時の女の子の気持ちを考えることで学習課題に迫った。また、終末にはタブレット端末のカードを活用し、きまりについての考えを一人一人発表し合うことで、きまりを守って生活しようとする思いを持たせた。

あらすじ	気付かせたい気持ち	考えられる発問	予想される反応
「わたし」は、友達のみりちゃんから子犬の話の聞き、早く見たくなってしまう。	子犬を見たい気持ちからきまりを守れなかった「わたし」の気持ち	「わたし」はどうしてよりみちをしたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>早く子犬が見たいから。</li> <li>どうしても見たいから。</li> <li>少しぐらいならいいと思ったから。</li> <li>犬が好きだから。</li> <li>きまりを忘れていたから。</li> <li>寄り道がそんなに悪い事だと思わなかったから。</li> </ul>
友達の家へ行って子犬を抱かせてもらい、つい時間を忘れてしまう。	子犬を抱いている時の「わたし」の気持ち	子犬を抱いている時、「わたし」はどんなことを考えましたか。	
「わたし」を探していた先生とお母さんの気持ち	先生とお母さんの姿を見た時の「わたし」の気持ち	先生とお母さんは、どんなことを考えながら「わたし」を探していたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「わたし」に何かあったんじゃないかな。</li> <li>けがをしたり、事故にあったりしていたらどうしよう。</li> <li>どこに行ったんだろう。</li> </ul>
「わたし」は、自分を探しに来た先生とお母さんの顔を見て、動けなくなる。	先生とお母さんの姿を見た時の「わたし」の気持ち	動けなくなった「わたし」は、どんなことを思ったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>だめなことをしてしまった。</li> <li>きつとしかられる。</li> <li>どうしよう。</li> <li>きまりをやぶってしまった。</li> </ul>
「わたし」は、先生に抱っこされ、お母さんの目に涙がいっぱいたまっていることに気付く。	お母さんの涙を見た時の「わたし」の気持ち	お母さんの涙を見た時、「わたし」はどんな気持ちになったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>こんなに心配してたんだ。</li> <li>心配させてごめんさい。</li> <li>寄り道しなきゃ良かった。</li> <li>大変なことをしてしまった。</li> <li>しかられると思ったのに。</li> <li>お母さんを悲しい気持ちにさせてしまった。こんなことにきまりを破ったら、家族や周りの人が悲しむんだ。</li> <li>もう、寄り道なんかしない。</li> </ul>

資料 | 教材分析・発問構成

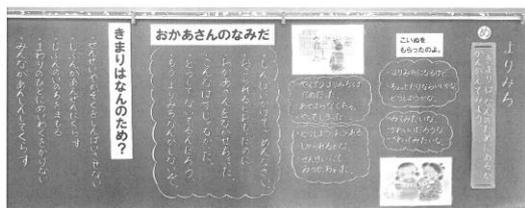
約束やきまりの意義を知り、自律的に守ろうとする心情を育てる。

ねらいと教材	主題設定の理由
児童が成長することは、同時に所属する集団や社会を構成する一員として集団や社会の様々な規範を身に付けていくことでもある。本教材は、主人公が子犬を見たいという欲求に駆られ、寄り道をしてしまう話である。登下校は児童の生活に深く関わるものであり、寄り道をしてしまう主人公の気持ちを自分で重ねて考えることができると思われる。きまりは個人や集団が安全にかつ安心して生活できるようにするために存在することを理解させ、それを進んで守ろうとする意欲や態度を育てることをねらいとする。	児童はこれまでの教材「じゅぎょうがはじまりですよ」(節度・節制)で時間を守ることの大切さ、「がっこうにはね」(感謝)で自分の生活がいろいろな人に変えられていることを学習している。学校生活にも慣れ、学校のきまりを守らなくてはならないという意識はあるが、自分の欲求を抑えられず、きまりを破ることがある。さらに、事前に行ったアンケート結果から、きまりを守る理由は「叱られるから」という回答が多かったため、きまりの意義についてもう一度考え直す必要があると考えた。

考え、議論する道徳の時間を充実させるために

1 発問の工夫 教材について考える際には、共感的な発問と揺さぶる発問を効果的に取り入れることにより、児童の心の弱い部分を引き出ししたり、より良い考えに気付かせたりする。
2 ICTの活用 主発問においてICTを活用し、自分の考えや友達考えをモニターに提示することにより、多面的に考えようとする態度を養う。

【板書計画】



学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 ※評価
1 アンケート結果から、自分たちの考え方について振り返り、本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケート結果を見て、気付いたことや思ったことはありますか。</li> <li>・ みんなはきまりをよく守っていると思います。</li> <li>・ 怒れている時、ろうかを走る人が多いです。</li> <li>・ きまりを守らないと家の人や先生に怒られるからという理由が多いです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケート結果から、身の回りにはいろいろなきまりがあることやそれらを守る意義について、自分たちの考えを確認することで、本時のねらいとする価値への方向付けを図る。</li> </ul>
きまりは、なんのためにあるのかかんがえてみよう。		
2 資料を読んで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子犬のことを聞いた時、私はどんな気持ちになったでしょう。</li> <li>・ 見てみたい。さわりたい。</li> <li>・ きつとかわいいだろうな。</li> <li>・ よりみちになるけど…。</li> <li>・ すこしぐらいならいいかな。</li> <li>○ 動けなくなった時、「わたし」はどんなことを思ったでしょう。</li> <li>・ どうしよう。おこられる。</li> <li>・ やってしまった。</li> <li>・ ごめんなさいって言わなくちゃ。</li> <li>・ やっぱりだめだった。</li> <li>○ お母さんの涙を見た時、「わたし」は、どんな気持ちになったでしょう。</li> <li>・ こんなに心配させてたんだ。</li> <li>・ おこれると思ったのに。</li> <li>・ 心配かけてごめんなさい。</li> <li>・ こんなことになるなんて。</li> <li>・ もう寄り道なんかしない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子犬しか目に入っていない挿絵を提示することで、主人公の中に「少しだけならいいかな」と思う気持ちが芽生えていたことに気付かせる。</li> <li>○ 中心発問につながる主人公の心情の変化に気付かせるため、他律的な意見も取り上げる。</li> <li>○ 先生やお母さんの「すごい顔」は、怒っているのではなく、心配のあまりにいつもと違う表情であったことを押さえることで、きまりを守ることの大切さに気付かせる。</li> </ul>
3 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ きまりは何のためにあるのか考えましよう。</li> <li>・ 家族や先生を心配させないため。</li> <li>・ 自分が安全にくらすため。</li> <li>・ 自分の命を守るため。</li> <li>・ まわりの人に迷惑を掛けないため。</li> <li>・ みんなが安心して生活するため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 価値の類型化を図ったり、補助発問で児童の心情を揺さぶったりすることで、自律的にきまりを守ることの大切さに気付かせる。</li> <li>※ きまりの意義を理解し、これからもきまりを守って生活しようとする心情が育っているか。</li> </ul>

## 資料2 指導案

### (2) 協議内容

- アンケートによる導入については、簡潔に、時間をかけすぎず効果的だった。
- 寄り道をする、「宿題ができないからだめだ。宿題ができないと寝るのが遅くなる。」という意見がたくさん出た。子どもたちの家庭での実態から出た考えだろう。児童の実態を把握して授業に臨むことが大切である。「宿題をしていたら寄り道をしてもいいのか。」という、揺さぶる補助発問をし、軌道修正したのはよかった。教材の中の「すごい顔」や「涙」というキーワードを取り上げて考えさせると、価値により迫れたのではないか。
- 終末のタブレット端末のカードを使った活動では、「○○だから、だめだよ。」という、言葉の前を考えて書き込めるワークシートを作っていたことが、1年生の児童にも分かりやすく有効だった。たくさんあるきまりの中から視点を絞っていたのもよかった。

### (3) 指導助言

- 明文化されたきまり、明文化されないきまりがあるが、日本人はどれも守れる傾向がある。きまりは「みんなが安全に気持ちよく過ごす」ためのものである。
- 道徳の授業で軌道修正したい場合は、大切なキーワードで問いを立てていくとよい。
- ICTは思考を可視化するのに有効である。今回の授業ではオープンエンドの形をとっていたが、道徳科の授業は最後に納得解を持って終わりたい。
- 資料分析、発問など、教師同士で学び合うことが大切である。道徳教育は全ての教育活動で行われる。これからもお互いに学び合いながら実践していこう。

## 4 おわりに

発問の工夫やICTの活用を主な視点に小中合同で研究協議を行うことができた。学びがいのある道徳科の授業を目指して、これからも、授業実践、教育活動を行っていきたい。

## 附属支部

### 1 研究主題

よりよい生き方を探究する子どもの育成

### 2 研究のあゆみ

道徳部会(適宜実施)

### 3 研究の内容(愛媛大学教育学部附属小学校 第1学年 指導者 辻 健一)

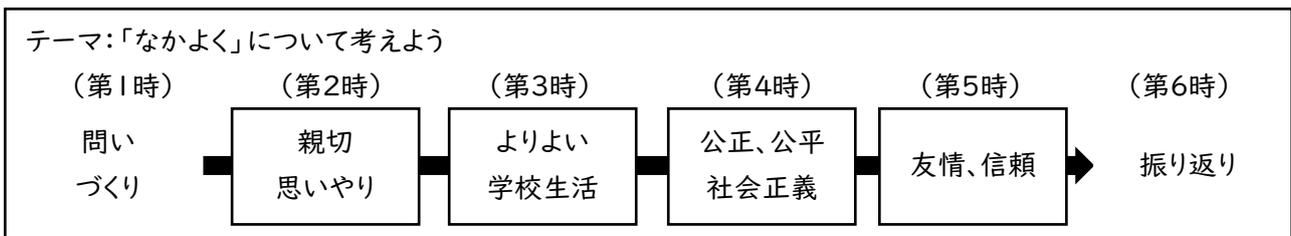
附属小学校では、昨年度から「子どもが創る『探究的な学び』をデザインする」という主題の下、研究を進めている。道徳部では、「なりたい自分」になろうとする生き方がよりよい生き方につながると考え、道徳科を軸としたユニット単元を設定したり、教科等横断的なカリキュラムを作成したりすることで、よりよい生き方を探究する子どもの育成を目指した実践を重ねている。

ここでは、令和4年度2学期に実践した事例を紹介する。

#### (1) 道徳科を軸としたユニット単元

##### ア 単元学習計画

本実践では、本校の校訓の一つである「なかよく」について、中心となるいくつかの内容項目を組み合わせて複数時間のユニットを組んだ。また、その前後に「問いづくり」「振り返り」の時間を1時間ずつ設定し、計6時間のユニットとした(資料1)。



資料1 「なかよく」をテーマとしたユニット単元学習計画

##### イ 授業の実践

全6時の中でも、「みんなで考えたい『なりたい自分になるための19の心(内容項目)』」のアンケートで最も多くの子どもが選んだ「友情、信頼」(第5時)の授業実践を紹介する。

(ア) 主題名 よりよい「なかよく」をめざして【B 友情、信頼】

(イ) 教材名 二わの ことり(「あたらしいどうとく1」東京書籍)

(ウ) 目標 悲しんでいる友達のためにできることを考えて行動する登場人物の言動を通して、友達と仲良く、助け合う人間関係を築こうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

##### (エ) 展開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導(○)と評価(●)
1 本時のめあてを確認する。	<p style="text-align: center;">「なかよく」ってどういうことなのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に遊ぶことだと思うよ。</li> <li>・けんかをしてすぐに仲直りすることだと思うよ。</li> <li>・困っている友達を助けることだと思うよ。</li> <li>・協力したり、助け合ったりすることだと思うよ。</li> </ul>	○ これまでの価値観を確認させることで、現在の自分を見詰め、よりよい自分になるための動機付けをする。
2 教材を読んで話し合う。	<p style="text-align: center;">みそさざいはどんな思いでやまがらの家へ行ったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがらは一人で寂しそうだな。</li> <li>・一緒に遊んだら楽しくなるだろうな。</li> <li>・うぐいすたちも誘えばよかったかな。</li> </ul> <p style="text-align: center;">みそさざいはこれでよかったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがらが涙を流すぐらい喜んでいるから、これでよかったと思うよ。</li> <li>・抜け出したことをやまがらが知ったら、喜ぶのかな。</li> <li>・やまがらがなくなったことに気付いたうぐいすは悲しむだろうな。</li> </ul>	<p>○ やまがらの家へ行くみそさざいの思いと、それを待つやまがらの思いを考えさせることで、二羽の関係について理解させる。</p> <p>○ 他教科での学びや経験を想起させることで、多面的・多角的に考えさせる。</p> <p>○ 友達と自由に話し合う時間を確保することで、多様な価</p>

<p>3 本時の活動を振り返る。</p>	<p style="text-align: center;"><b>自分がみそさざいならどうするかな。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めからやまがらのところへ行きたいけど、本当にできるかな。</li> <li>・やまがらを悲しませたくないから、初めからやまがらのところへ行く。</li> <li>・誕生日だからプレゼントも買って行ってあげる。</li> <li>・ちゃんとうぐいすに理由を説明してから、やまがらのところへ行く。</li> <li>・人数が多い方が楽しいから、みんなを誘ってやまがらのところへ行く。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>これまで・今日・これからについて思ったことを書こう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからもそばにいてくれる友達を大切にしたいな。</li> <li>・お互いに仲良しと思える関係を大切にしたいな。</li> <li>・友達にも助けられているから、今度は自分が助けてあげよう。</li> <li>・クラスのみんなどよりよい「なかよく」を目指していきたいな。</li> </ul>	<p>値観に触れさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問い返しをすることで、うぐいすの思いに気付かせたり、真実を知ったやまがらの気持ちを想像させたりして、よりよい「なかよく」について考えさせる。</li> <li>○ 「なりたい自分」を書かせることで、実践意欲と態度をさらに高めさせる。</li> <li>● 友達と仲良く、助け合う人間関係を築こうとする道徳的実践意欲と態度を持つことができたか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(発言・振り返りシート)</p>
----------------------	--	---

## (2) 教科等横断的なカリキュラム

他教科等においても「なかよく」を感じたり、考えさせたりするための学習計画を立てた(資料2)。そうすることで、多面的・多角的に道徳的諸価値について考えることができる考えた。また、体験活動を通して「なかよく」のよさを感じることができると考えた。

ユニット単元の学習計画	関連する学習	期待する他教科等での子どもの意識や思い
第1時 「計画を立てよう」	国語科「あめのうた」	・雨はみんなと仲良くできるんだな。
第2時 「親切にすると、仲良くなるのだろうか」	国語科「くじらぐも」 図画工作科 「ぺったんコロコロ」	・たくさん「なかよく」がある話だな。 ・違う材料を持っている友達と作品を作ると楽しいな。
第3時 「言葉の使い方を考えよう」	体育科 「ボールとなかよし」	・友達と協力して運動をしよう。
第4時 「好き嫌いで行動を変えるのはどうしてよくないのだろうか」		
第5時 「よりよい『なかよく』とは」		
第6時 「振り返りをしよう」	図画工作科 「おはなしからうまれたよ」 国語科 「たのしかったことをかこう」	・仲良くしている話を絵で表現してみよう。 ・友達と楽しかったことについて書こう。

資料2 教科等横断的な学習計画

## 4 研究の成果(○)と課題(●)

- ユニット単元の第1時で学習計画や共通の問いを設定することで、単元を通して子どもたちの学習に対する主体性の高まりや自分を通して考える子どもの姿が見られた。
- 教科等横断的なカリキュラムを取り入れることで、子どもたちは生活の一部である「学習」も一つの経験知として考えることができていた。
- 本実践と同じように子どもに学習する内容項目を選ばせると、同じ内容項目ばかりが選ばれる可能性がある。そう考えると、年間を通してユニット単元ばかりで学習するのではなく、一学期に一度程度が望ましい。
- 道徳科での学びをより深いものにするには、他教科等の教材と道徳科で取り扱う内容項目についての関係性を綿密に整理・計画する必要がある。

## おわりに

愛媛県教育研究協議会 道徳委員会

副委員長 石村 秀志(四国中央市立中之庄小学校校長)

4年振りに開催された夏季研修会(愛教研小・中学校道徳教育研究大会)の記録、各支部の活動報告などを読ませていただき、県下全域で道徳教育の充実が図られていることがひしひしと伝わってきました。御多用の中、原稿を御執筆いただきました皆様、研究大会の記録をまとめてくださった関係者の皆様にお礼申し上げます。

「特別の教科 道徳」の授業では、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」への質的転換が求められています。この『愛媛の道徳教育』には、夏季研修会で行われた文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、井上結香子先生の御講演や分散会の記録とともに、県下各地の授業実践などの記録が掲載され、道徳科の授業改善のヒントがたくさんちりばめられています。主体的・対話的で深い学びは、子どもたちだけに求められるものではありません。県内各地の先生方が、本冊子で得た学びを基に御自身の道徳の授業を振り返り、道徳の授業を楽しむ一助になればと、今年度から電子版でお届けすることとしました。ぜひ御活用ください。

令和10年度には、全日本中学校道徳教育研究大会(全国大会)が愛媛で開催されます。愛教研道徳委員会では、全国大会を視野に入れながら、子どもたちにとって「学びがいのある道徳の授業」について来年度の研究を進めてまいります。県内の小・中学校におかれましても、学びがいのある道徳科の授業づくりに取り組んでいただき、来年度もまた優れた授業実践が県下各地より寄せられることを期待しております。

## 令和5年度 愛媛県教育研究協議会 道德委員会役員

	氏名	勤務校		氏名	勤務校
委員長	山岡 健二	国安小	研究部副部長	松崎 桂子	西中
副委員長	石村 秀志	中之庄小	編集部統括	有馬 知歩	坂本小
副委員長	藤堂 玄人	日土小	編集部長	野本 淳子	日浦小
副委員長	森脇 和夫	鴨川中	編集部副部長	岡田由香里	立花中
事務局統括	森下 典明	正岡小	幹事	宮脇美智代	福音小
事務局長	三宅 浩司	久枝小	幹事	名智 律子	窪田小
事務局長補佐	辻 健一	附属小	幹事	豊田 幸子	和気小
事務局会計	東倉 知美	興居島小	幹事	村上 理恵	雄郡小
運営部統括	長田 博臣	浅海小	幹事	河野 美穂	城川中
運営部長	高市 佳児	栗井小	幹事	河野 若菜	白浜小
運営部副部長	重松 直綾	港南中	幹事	大柳 美優	北条南中
研究部総括	石崎 有一	重信中	幹事	大橋 周平	伊方小
研究部長	小島 啓明	鶴島小			

## 令和5年度 支部委員長

支部名	氏名	勤務校	支部名	氏名	勤務校
四国中央	高井 佳乃	北小	喜多	山崎 秀章	内子小
新居浜	栗林 音菜	南中	八幡浜	石井由未香	真穴小
西条	秋山 萌香	楠河小	西宇和	次家 優祈	三崎中
今治・越智	正岡 美和	常盤小	西予	河野 美穂	城川中
松山	篠浦 暁子	北条北中	宇和島	赤松安季枝	立間小
東温	西尾 卓	南吉井小	北宇和	三好 純	近永小
伊予	丸山 美紀	北山崎小	南宇和	松岡 陽子	平城小
上浮穴	日野 裕太	面河小	附属	辻 健一	附属小
大洲	二宮万岐子	平小			

# 愛媛の道德教育

第48集

---

令和5年3月 発行

発行者 愛媛県教育研究協議会 道德委員会 委員長 山岡 健二